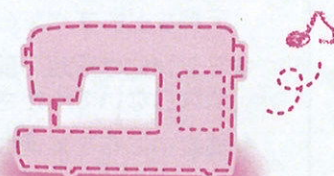


Sashiko

— 刺し子 —

ご使用のてびき



このたびはお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。

- ご使用前に、この「ご使用のてびき」をよくお読みいただき、正しくお使いください。
- 保証書はお買い求めの販売店から必ずお受け取りのうえ、この「ご使用のてびき」とともに大切に保管ください。

目次

安全にご使用いただくために	
1 刺し子ミシンについて 1	6 縫いテクニック 14 直線縫いとカービングステッチ/生地回転
2 各部の名称と付属品 2	7 縫い目の調節 17 縫い目の長さと同隔の調節/糸調子
3 縫う前の知識 4 電源コード・電源スイッチ・フットコントローラー・はずみ車/押え上げレバー/押え圧力調整ダイヤル/フリーカーブ調節ダイヤル/3つのランプと設定ボタン	8 便利な機能 19 段縫いボタン/ガイドライン付針板/一針縫い(ワンステップモード)
4 糸の準備 8 ボビンへ糸を巻く/ボビンのセット/ボビンの交換	9 メンテナンス 22 針の交換/蓋針(ラッチワイヤー)の交換/送り歯の掃除/ボビンケースの掃除
5 さあ縫いはじめましょう 12 縫う準備/縫いスタート/縫い終わり	10 生地と糸について 26
	11 トラブルシューティング 27

安全にご使用いただくために

このミシンを、安全にご使用いただくために、以下のことがらを守ってください。

このミシンは、日本国内向け、家庭用です。

FOR USE IN JAPAN ONLY



警告

感電、火災の恐れがあります。

1. 一般家庭用交流電源100Vでご使用ください。
2. 以下のような時は、電源スイッチを切り、電源プラグを引き抜いてください。
 - ・ミシンのそばを離れるとき
 - ・ミシンを使用したあと
 - ・ミシン使用中に停電したとき
3. ミシン、フットコントローラー、プラグを水に濡らしたり、水に落としたりしないでください。



注意

感電、火災、けがの原因となります。

- ◆フットコントローラーや電源コードの上に物を乗せないでください。
- ◆お客様自身でのミシン本体やコントローラー、電源コードの分解・改造等はしないでください。
- ◆ミシンの操作時は、ミシン本体のカバー類はすべて閉じてください。
- ◆ミシンの操作中は、針から目を離さないようにし、針、はずみ車、天秤など、すべての動いている部品に手を近づけないでください。
- ◆ミシンには正規の部品（ボビン、針等）をご使用ください。また曲がった針や破損している針はご使用にならないでください。
- ◆縫製中に布を無理に引っ張ったり、押しつけないでください。
- ◆お子様がご使用になるときや、お子様の近くでご使用される場合は、特に安全に注意してください。
- ◆ミシン、フットコントローラーに以下の異常があるときは、速やかに使用を停止し、お近くの販売店にて点検、修理、調整をお受けください。
 - ・電源コードまたは電源プラグが破損、劣化したとき
 - ・落下などにより破損したとき
 - ・水に濡れたとき
 - ・異常な臭いや音がするとき
 - ・正常に作動しないとき
- ◆ミシンの釜やフットコントローラーにホコリがたまらないようにしてください。
- ◆ミシン、付属品、梱包用のビニール袋などをお子様の玩具として扱わないでください。
- ◆ミシン、フットコントローラーの換気穴をふさがないでください。換気穴に糸くずやホコリがたまらないようにしてください。
- ◆ミシン、フットコントローラーの内部に異物を入れたり、ドライバー等を差し込まないでください。
- ◆ミシンを落下しやすい場所、湿度の高い場所、風呂場や流し台のそばで使用しないでください。
- ◆針折れが発生したときは、折れた針を縫製物に残さないでください。周囲に飛散した針は安全な方法で捨ててください。
- ◆ミシンは針の上下運動により縫い目を作ります。針の動きには特に注意してください。
- ◆以下の場所でのご使用および保管はなさないでください。
 - ・強力なスポットライトや熱器具のそば、直射日光の当たる場所
 - ・高い場所
 - ・スプレー製品や酸素、引火性の高い薬品を扱っている場所
 - ・お子様の手の届く場所

※ミシンの使用温度は0℃～40℃です。
- ◆以下のことをするときは、必ず電源スイッチを切ってください。
 - ・針、針板、押え金、アタッチメントの交換をするとき
 - ・糸をセットするとき
 - ・「ご使用のびき」に記載のあるお手入れを行うとき
- ◆電源コードの接続に、延長コードや分岐コンセントを使用しないでください。
- ◆電源プラグをコンセントから抜くときは、電源スイッチを切ってからプラグを持って抜いてください。コードを引っ張らないでください。
- ◆ミシンを移動するときは、把っ手を持って行ってください。
- ◆ミシンを使用しない場合でも、少なくとも半年に1度、理想的には3ヶ月に1度くらいは作動させるようにしてください。1年以上作動させなかった場合は販売店にて点検されることをお勧めします。



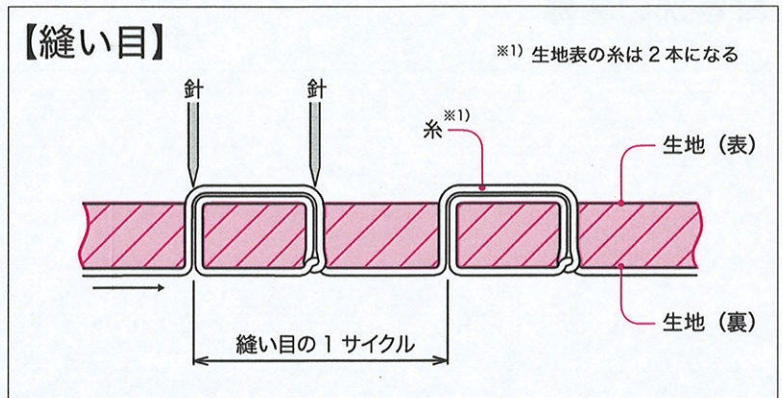
■ 縫い目について

刺し子ミシンの縫い目は、よく見ると表側には糸が2本渡っているのですが、密に平行して縫われているため1本のように見え、さらに柔らかかな、まさしく手で縫ったように手縫い風(ハンドステッチ風)の縫い目になります。裏側は普通ミシンの縫い目のようになります。

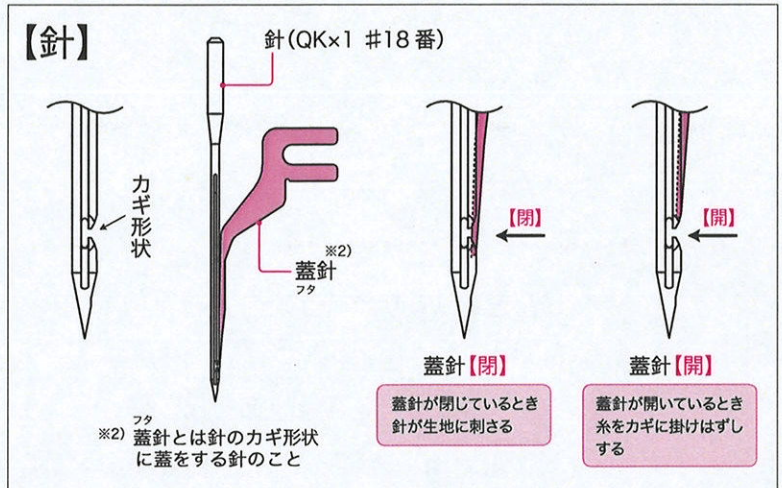
使用する糸は下糸の1本のみです。この糸は一度ボビンに巻いてから使用します。

縫い目の構造は、一般のミシンと大きく違っており、右上図のように、2回転で一つの縫い目を形成します。

【縫い目】



【針】



■ 使用に関する注意

手縫い風の縫い目にするために特殊な針を使用したり、また複雑な動きを繰り返すため、下記のことを必ずお守りください。

- (1) 掃除をこまめに行う。使用後は必ず釜の周辺を重点的に掃除を行うこと。ホコリが溜まるとトラブルの原因になるので、通常のミシン以上にホコリや油等に注意が必要(P25参照)。
- (2) 同じ箇所(同じ針落ち位置)に絶対に続けて2度以上針を刺さない。
→ 針折れなど、トラブルの原因になる。
- (3) 縫製中に生地を引っ張ったり押ししたりしない。
- (4) 使用する糸は、スパン糸などの#40～#100。
使用できない糸は、撚り(ヨリ)のないまたは少ない糸、およびウーリーナイロン糸。
手縫いの刺し子用糸や手縫い刺しゅう糸も撚りが少ないため使わないこと。
- (5) 使用する生地には、伸びるニット地や薄いオーガンジーなどは適さない。
ニット地などを縫う場合は芯を貼ると良い。

注意

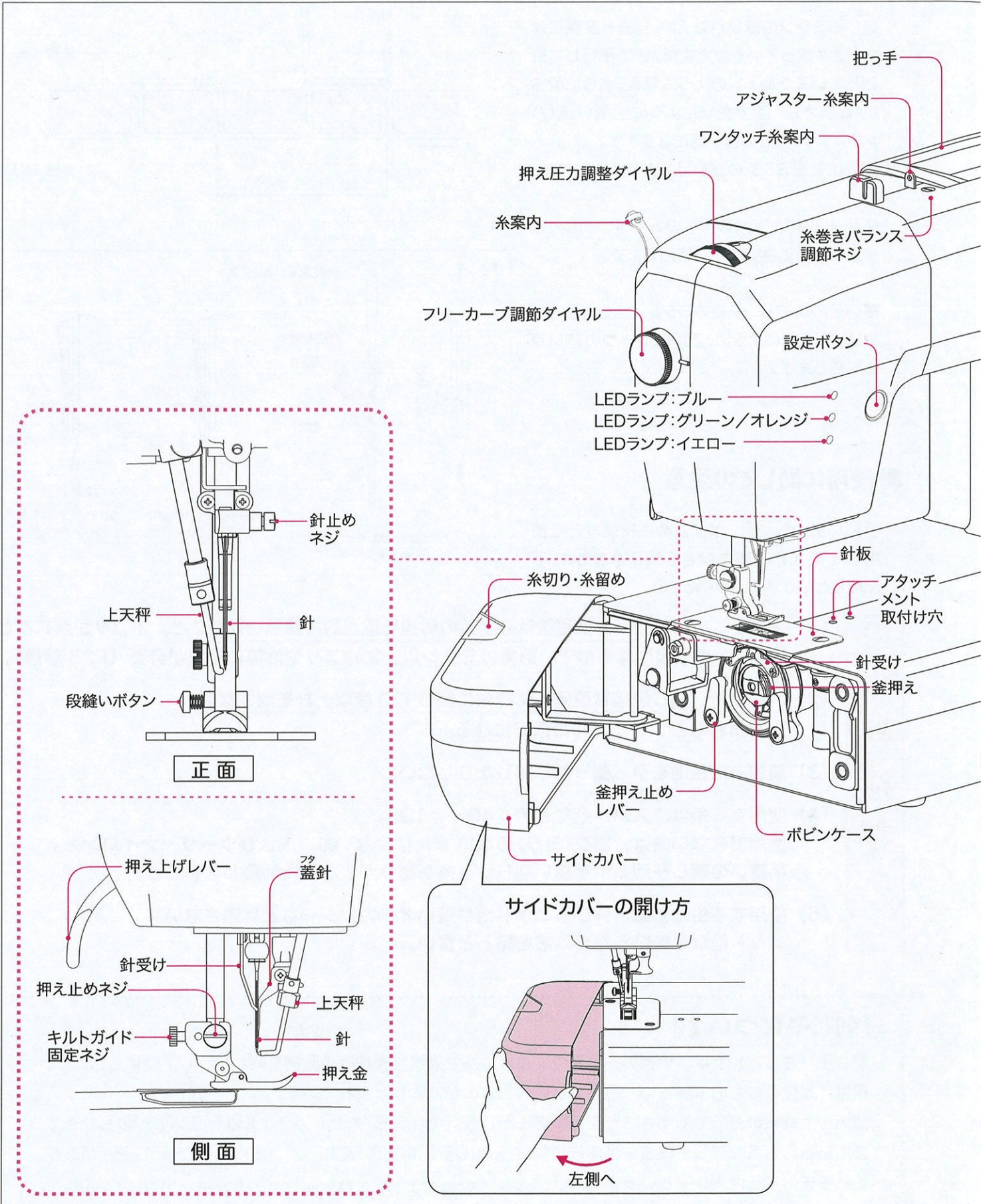
【刺し子について】

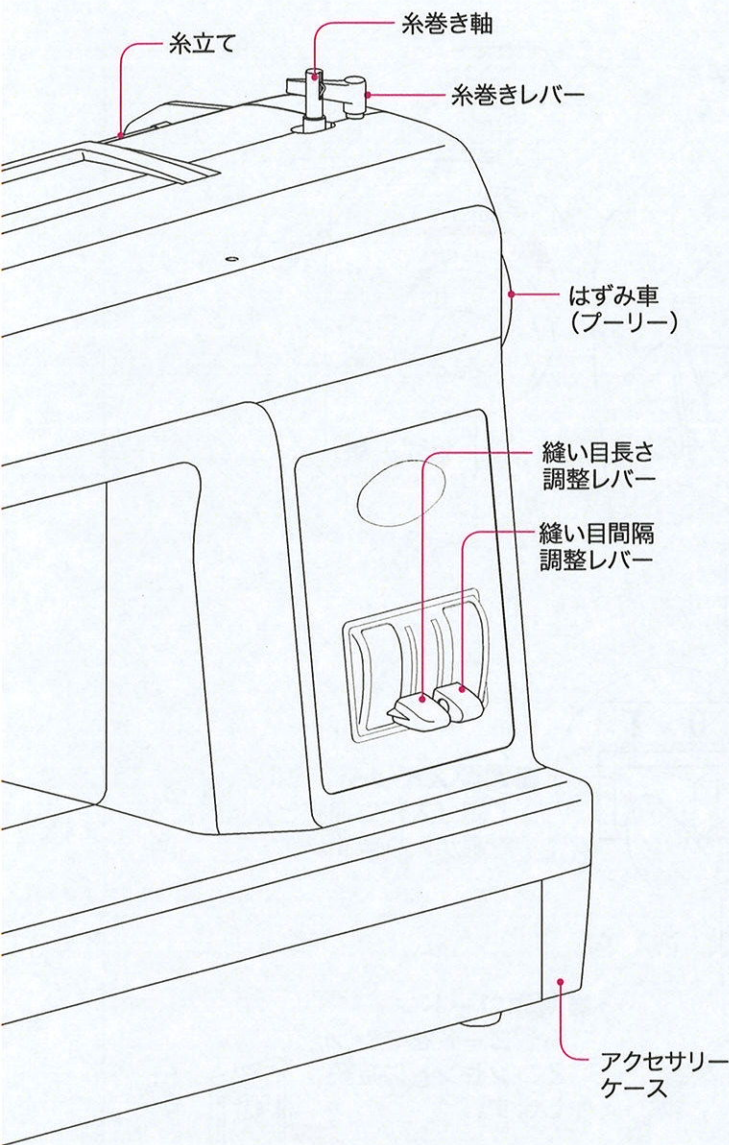
刺し子(さしこ)とは、手芸の一分野で、布地に糸で幾何学模様等の図柄を刺しゅうして縫いこむこと。保温、補強等のため木綿布に木綿糸で補強したものが始まりとされている。

藍色の木綿布に白糸で刺すものが定番であるが、最近では、布/糸ともカラフルな色合いのものもできてきている。有名な刺し子技法には津軽の『こぎん刺し』、南部の『菱刺し』、庄内の『庄内刺し子』があり、これらを日本三大刺し子という。

出典：フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

■各部の名称

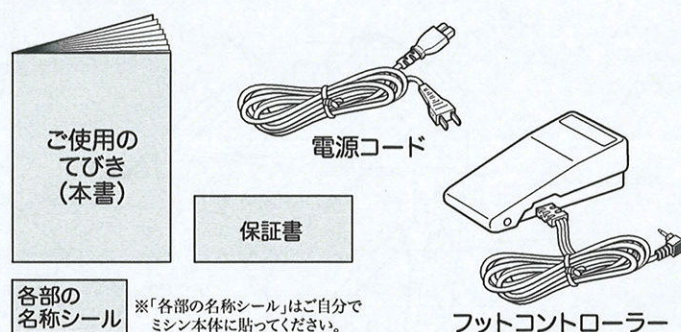




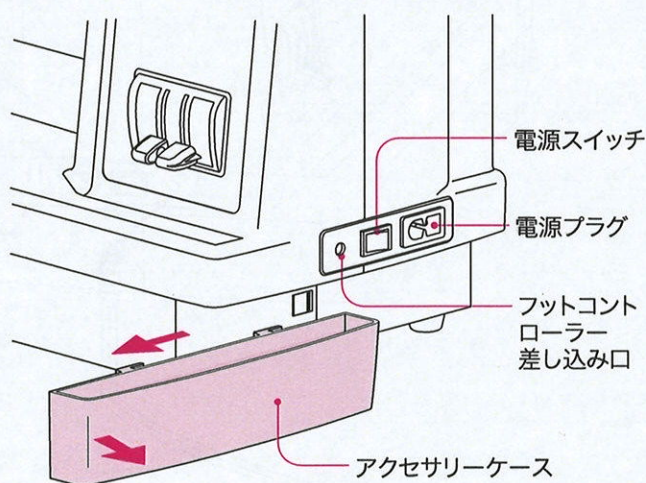
ご購入時に下記の付属品がすべて揃っていることをご確認ください。

※出荷時に確認しておりますが、万一不足品がございましたら、すぐに販売店にお申し出ください。

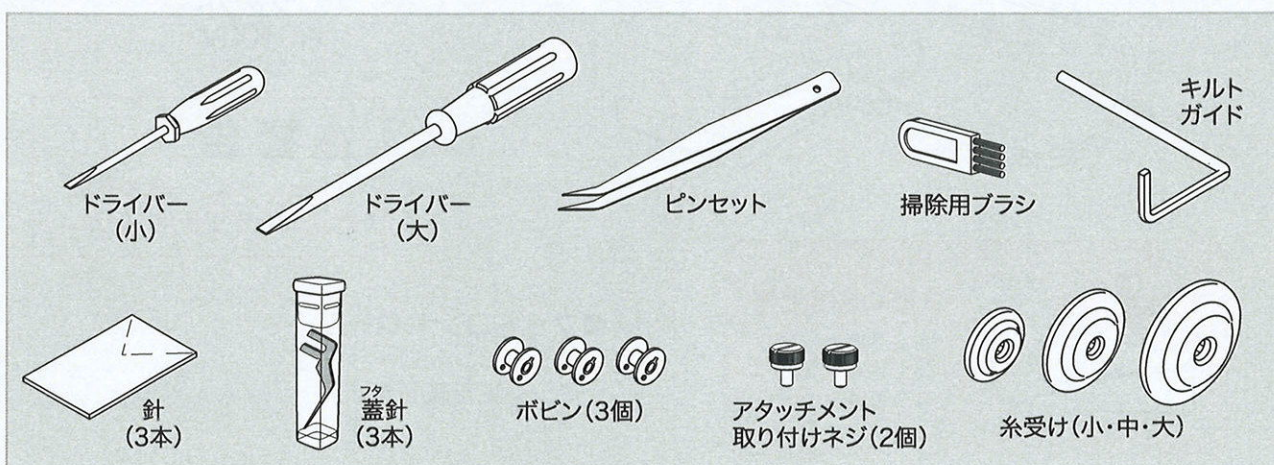
■付属品



アクセサリケースの開け方



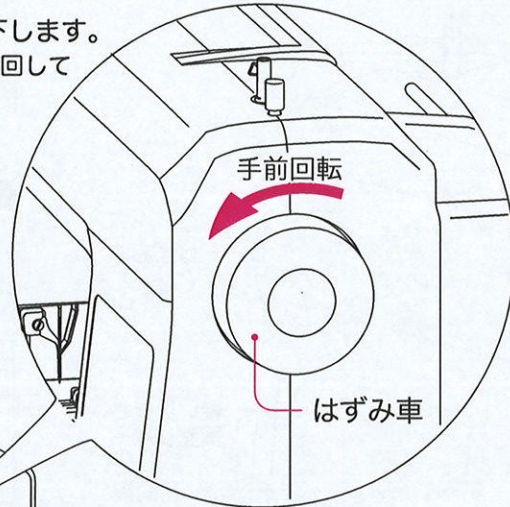
■アクセサリケースの中の付属品



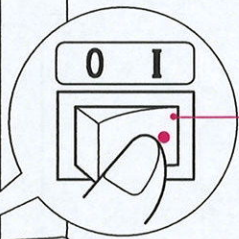
3 縫う前の知識

■ 電源コード・電源スイッチ・フットコントローラー・はずみ車

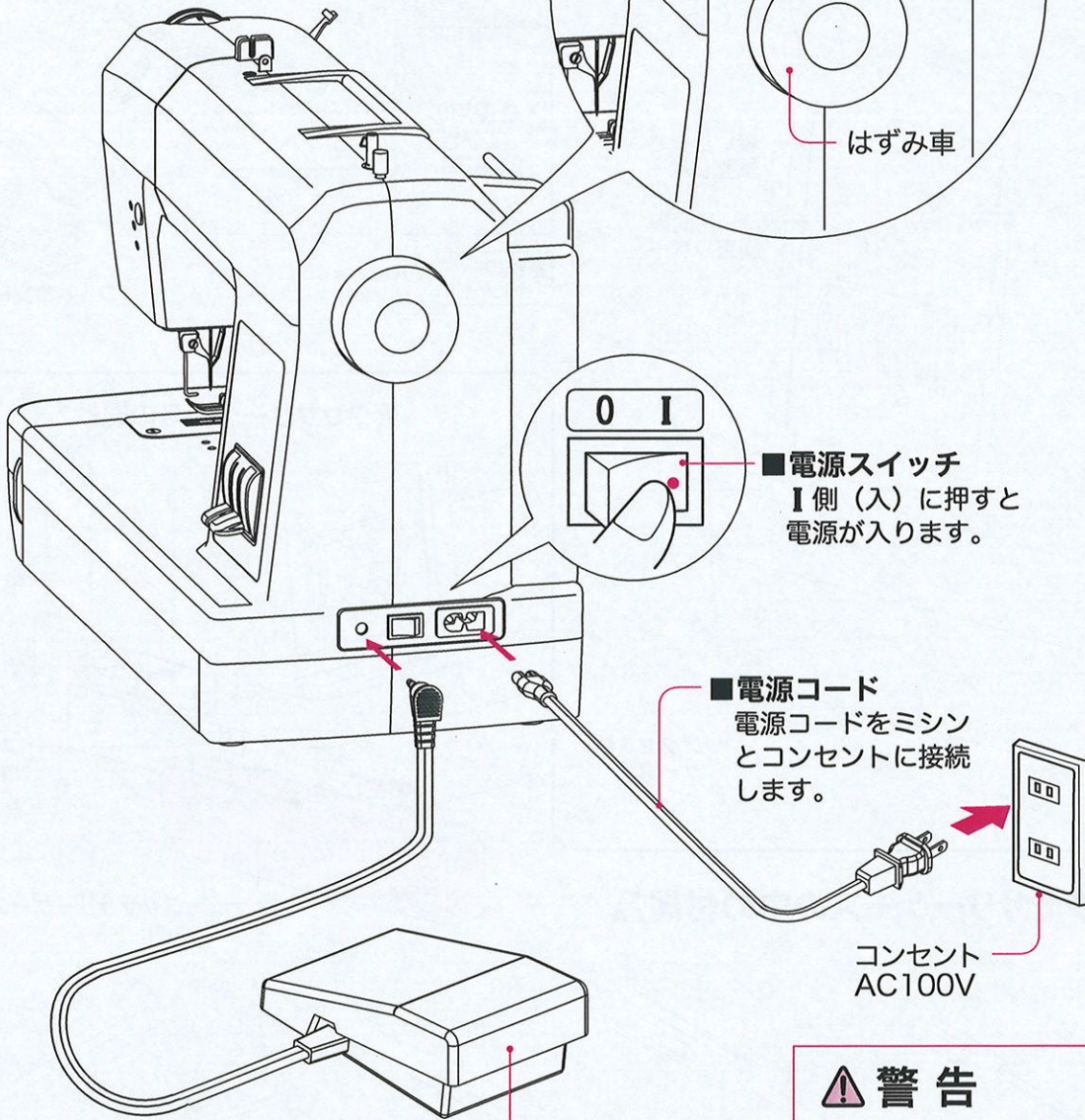
■はずみ車（プーリー）
はずみ車を回すと針が上下します。
※はずみ車は必ず手前方向に回して
ください。



■電源スイッチ
I側（入）に押すと
電源が入ります。

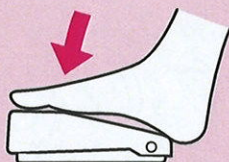


■電源コード
電源コードをミシン
とコンセントに接続
します。



⚠ 警告

コンセントは、一般家庭用
電源100Vをご使用ください。

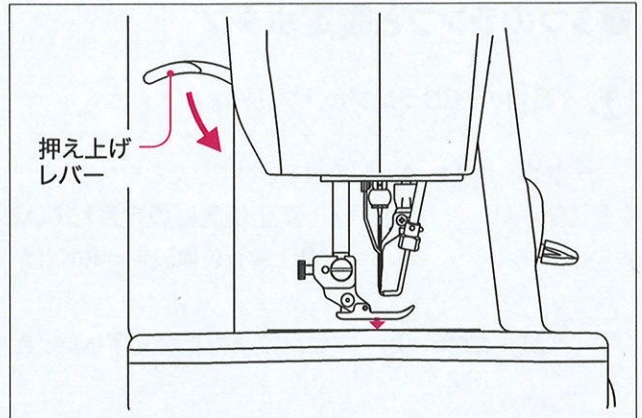


■スピードの調節
強く踏むと早く、
弱く踏むと遅く
なります。

■フットコントローラー
フットコントローラーを
ミシンに接続します。

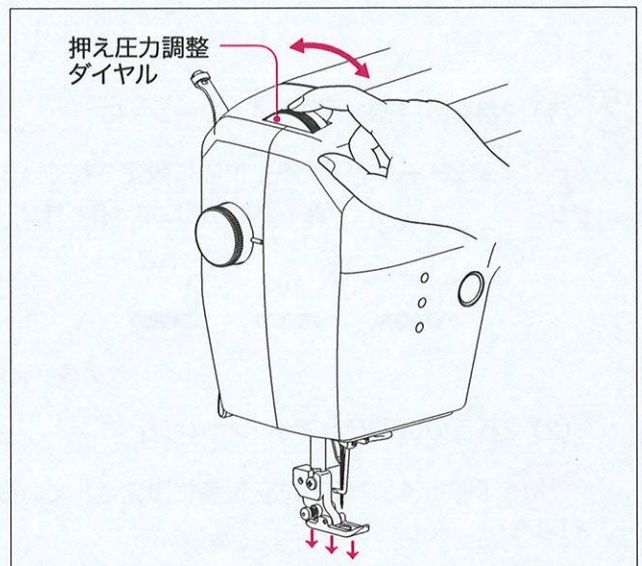
■ 押え上げレバー

レバーを下げると押え金が下がり、布地を押えます。



■ 押え圧力調整ダイヤル

「押え圧力調整ダイヤル」の数字を大きくすると、布地を押える力が強くなり、数字を小さくすると、布地を押える力が弱くなります。



■ フリーカーブ調節ダイヤル

「フリーカーブ調節ダイヤル」は

● まっすぐに縫うとき

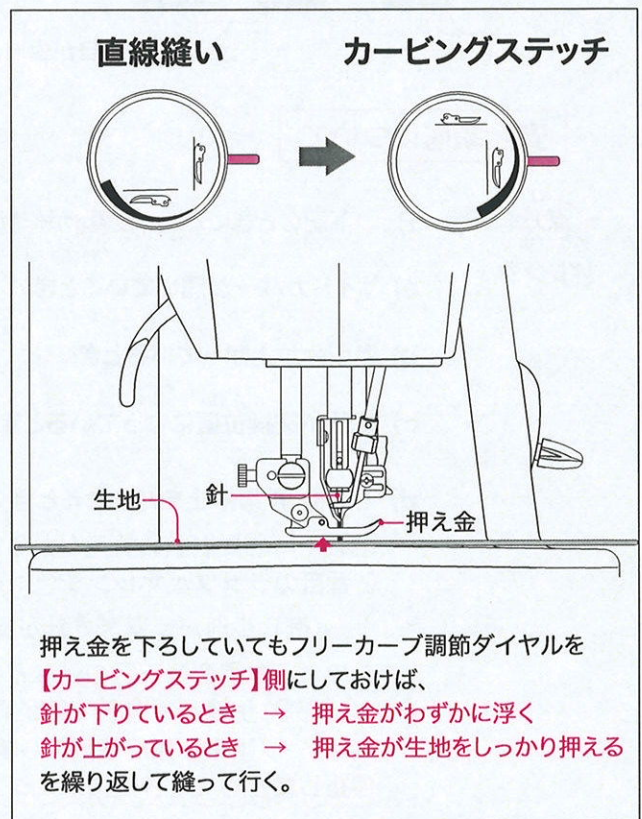
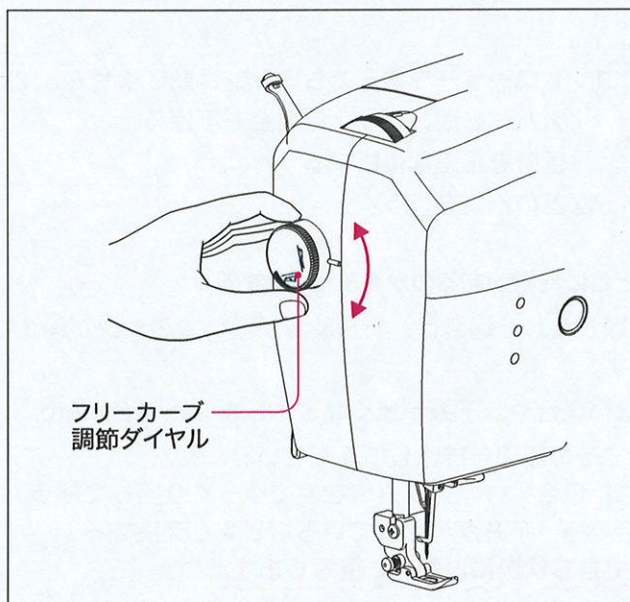
→【直線縫い】側へ合わせる

※常に押え金がしっかりと生地を押えます。

● カーブ縫いや生地を回転したいとき

→【カービングステッチ】側へ合わせる

※針が下りているときのみ押え金がわずかに浮くので、縫い方向をスムーズに変更できます。押え金の浮き高さも3段階に変更でき、生地の厚みによって調節できます。

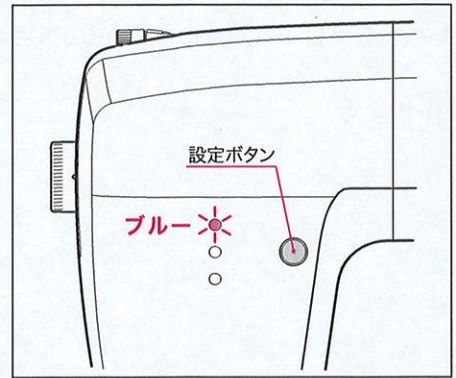


■3つのランプと設定ボタン

① 1番目のLEDランプが『ブルー』に

- 点灯ブルー** → A: 電源をONにしたとき
 B: 針上停止位置に設定されているとき^{※1)}
 ※1) 針上停止位置設定=必ず針が一番上の位置で停止する

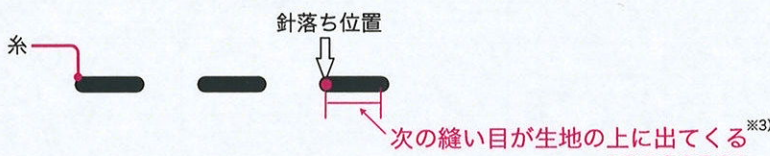
- 点滅ブルー** → C: ポビンの糸巻きが完了したとき



↑ ↓ 「設定ボタン」を押すごとに上停止位置と下停止位置の設定が切り替わる

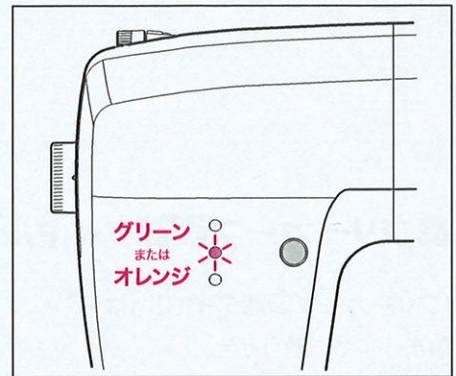
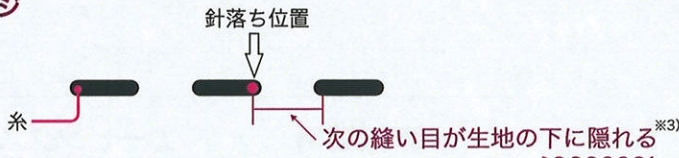
② (1) 2番目のLEDランプが『グリーン』に

- 点灯グリーン** → A: 針下停止位置に設定されているとき^{※2)}
 ※2) 針下停止位置設定=必ず針が一番下の位置で停止する



(2) 2番目のLEDランプが『オレンジ』に

- 点灯オレンジ** → A: 針下停止位置に設定されているとき



※3) 2番目のLEDランプが“グリーン”または“オレンジ”に点灯するときは、どちらも針下停止位置に設定されていることを示すが、次の縫い目が「生地の上に出てくる」か「生地の下に隠れる」かの違いがある。角縫いのときなどは注意が必要である。

安全装置について

- 点滅オレンジ** → B: 下記のときに『安全装置』が作動

- a) サイドカバーが開いているとき
- b) 押え金が上がっているとき
- c) 蓋針が交換位置になっているとき

→ コントローラーを踏んでもミシンは動きません。
 ・カバーを閉める ・押え金を下げる
 ・蓋針を正確な位置にする
 などの作業を行う。

- d) その他 異常停止を知らせるとき → どこに異常があるのかをチェックする

縫製中に必要以上の負荷かかるなどの問題が生じた場合は、安全装置が働いてミシンが停止し、2番目のランプがオレンジ色に点滅します。

(例) 生地が厚過ぎて針が貫通できない場合や、下糸が無くなってしまった場合 etc.

このような場合は下記の例などを確認してその原因を排除してください。

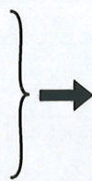
(例) 生地が厚過ぎて針が貫通できない場合 → はずみ車を手でゆっくり回して縫う
 下糸が無くなってしまった場合 → 下糸が巻かれているポビンと交換する

停止してから10秒後にはミシンは作動できる状況に自動的に復帰します。

③ **ボビンを取り出したり、セットする**

フタ
蓋針を交換する

針を交換する



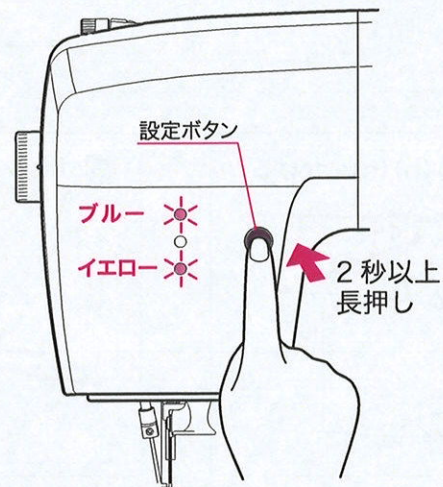
「設定ボタン」を2秒以上長押ししてください。
下図の(1)または(2)のようにランプが点灯し、
左記の作業ができる状態になります。
この状態を『ローディングポジション』と呼びます。

(1) 「設定ボタン」を2秒以上長押しすると

➡ 針上停止位置に設定されているときは

1番目の『ブルー』 } が点灯
3番目の『イエロー』 }

ボビンを取り出したり、セットする }
蓋針を交換する } ことができます。
針を交換する }

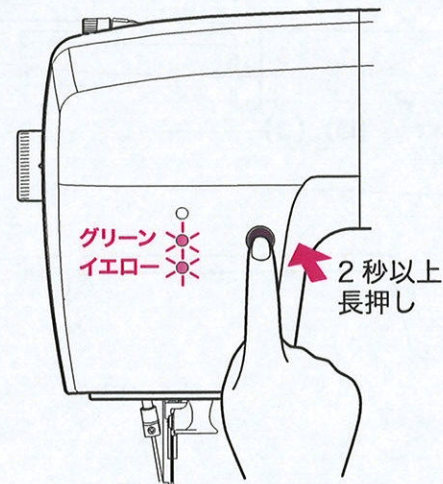


(2) 「設定ボタン」を2秒以上長押しすると

➡ 針下停止位置に設定されているときは

2番目の『グリーン』 } が点灯
3番目の『イエロー』 }

ボビンを取り出したり、セットする }
蓋針を交換する } ことができます。
針を交換する }



☞ この3つのLEDランプが消えているときは、ボビンの糸巻き設定の状態になっています。
このときはずみ車を手で回そうとしても回りません。
糸巻き軸を左側に戻してください。(P9参照)

4 糸の準備

このミシンは1本糸で縫います。糸はポビンに巻いてから使用します。糸をポビンに巻く方法は以下の通りです。

■ ポビンへ糸を巻く

1 糸立て棒に糸を差し込む
糸立て棒

2 糸駒キャップを差し込む
糸駒キャップ

3 糸案内(a) (b) (c)にかける
(a)

4 ポビンの穴に内側から糸を通す

5 糸巻き軸にポビンを差し込む
糸巻き軸

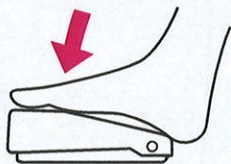
6 糸巻き軸に刺さったポビンをポビン押えに寄せる
ポビン押え

7 糸端を持ったままフットコントローラーを軽く踏み、少し巻いたところで持っていた糸の根元を切ります。
糸端を引っ張り過ぎないように！
少し巻いたら根元から切る

カチッと音がするまで押し込む (b) (c)

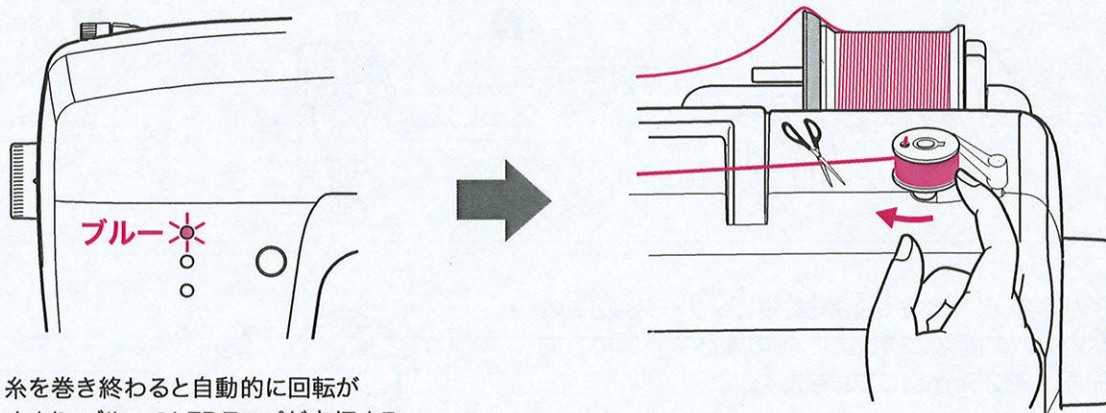
注 この糸巻き軸が右側に位置するとき3つのLEDランプはすべて消え、はずみ車は動きません。

8 再びフットコントローラーを踏み、糸を巻く。



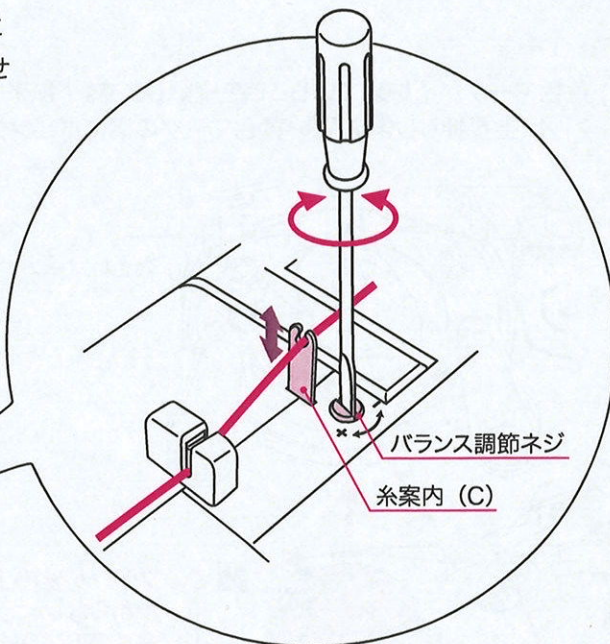
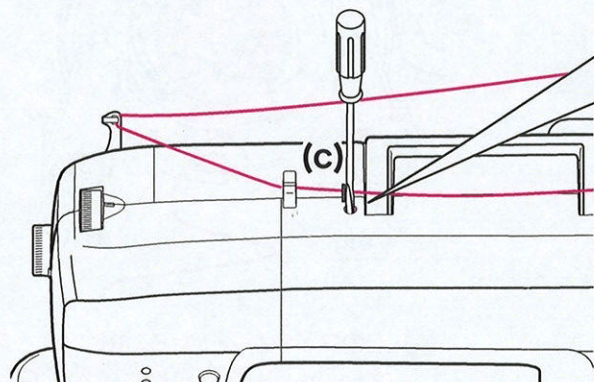
※コントローラーを3秒以上踏むと、足を離しても離した時点の巻き取り速度で回り続けます。
途中で止めたいときは、軽くチョンと踏んですぐに離すと止まります。

9 糸を巻き終わったら、糸巻き軸を手で元の位置に戻し、糸を切ってボビンをはずす。



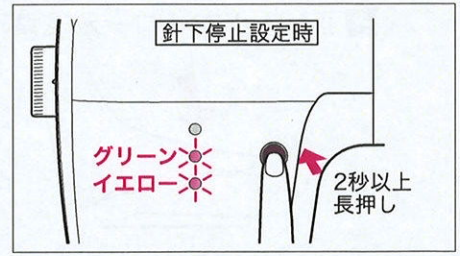
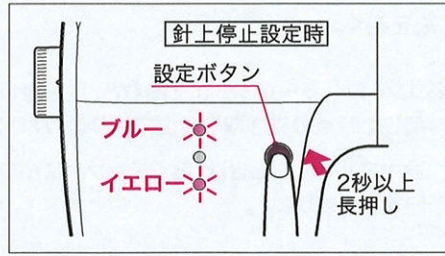
糸を巻き終わると自動的に回転が止まり、ブルーのLEDランプが点灯する。

下記のようにボビンの巻きがかたよる場合は、図のようにバランス調節ネジを回し、(C)の糸案内の高さを変化させることによって均一になるように調節できます。

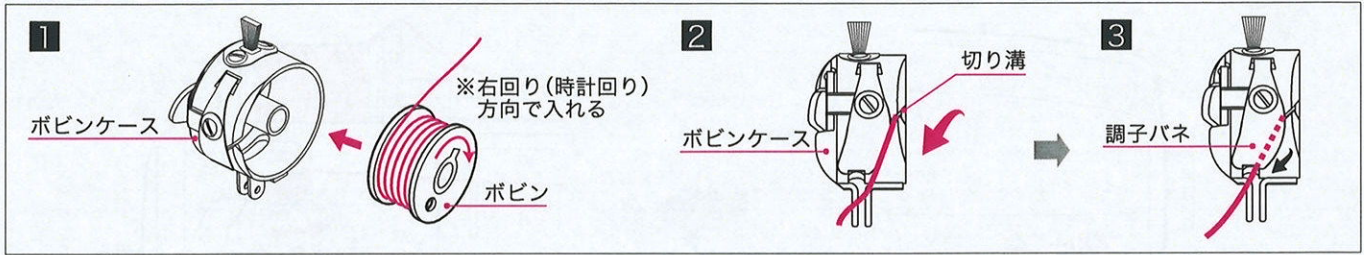


■ボビンのセット

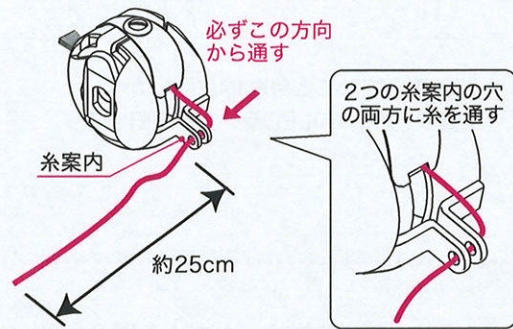
- ① 設定ボタンを2秒以上長押しして『ローディングポジション』(P7参照)にします。



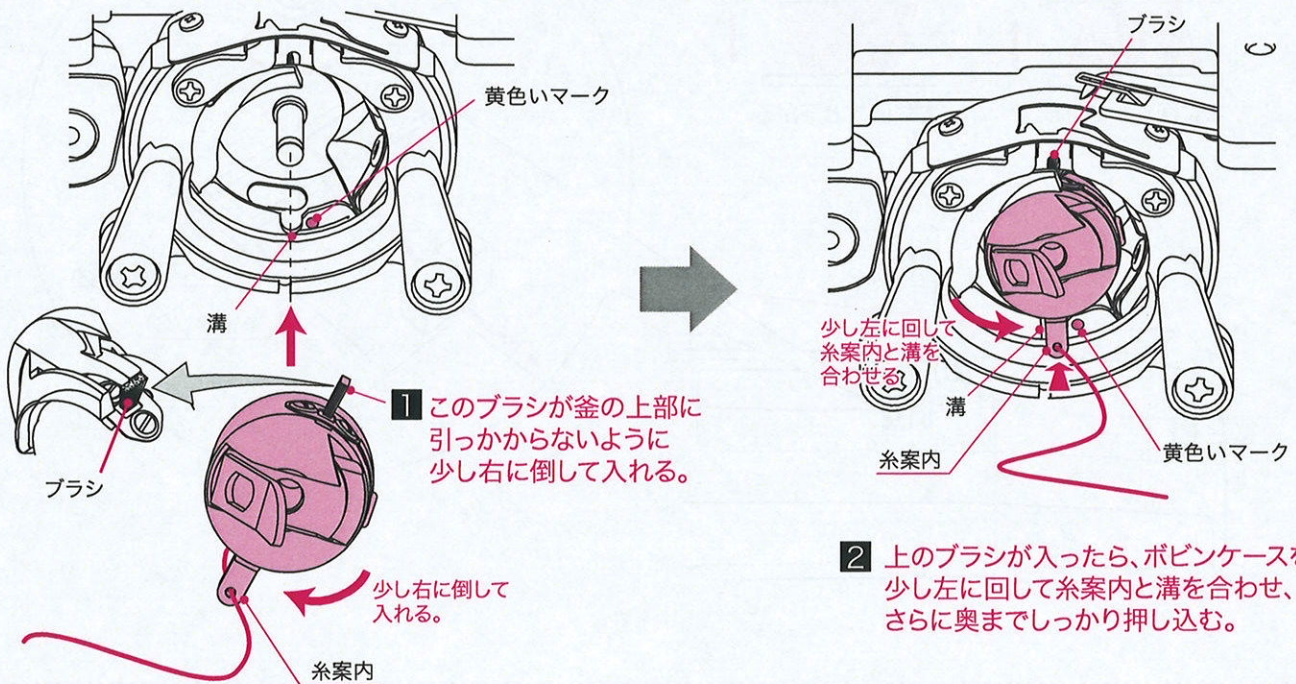
- ② ボビンに巻いた糸が右回り(時計回り)になるようにしてボビンケースに入れます。糸を切り溝に滑り込ませ、調子バネの下にくぐらせます。



- ③ 調子バネの下にくぐらせた糸は、ボビンケースの2つの糸案内の穴の両方に通します。その際必ず下図の方向から通し、約25cm出しておきます。

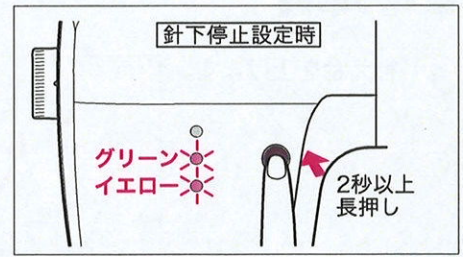
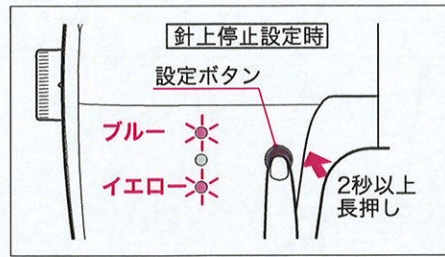


- ④ 黄色マークが下に来ていることを確認します。下に来ていないときは一度サイドカバーを閉じて「設定ボタン」を2秒以上長押しします。この黄色マークの溝にボビンケースの糸案内がはまるように装着します。

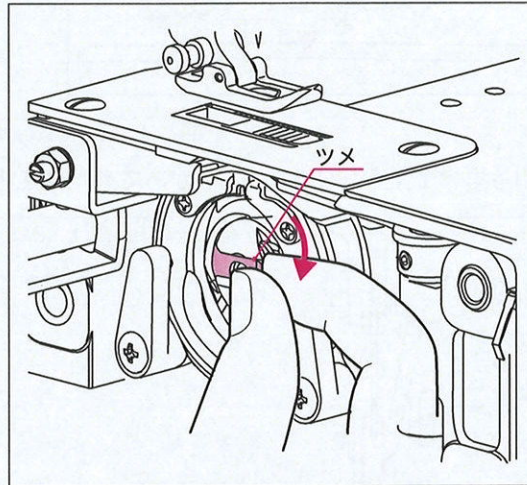


■ボビンの交換

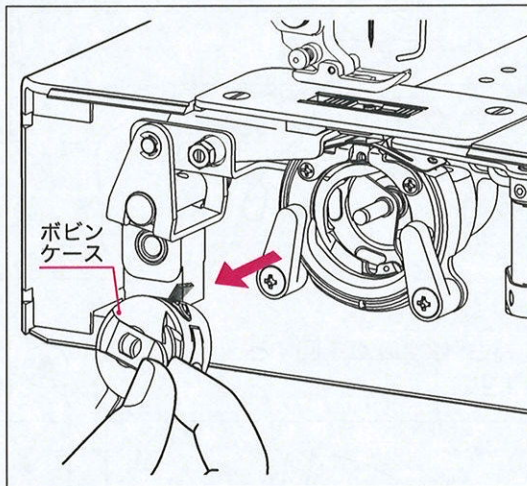
- ① 設定ボタンを2秒以上長押しして『ローディングポジション』(P7参照)にします。



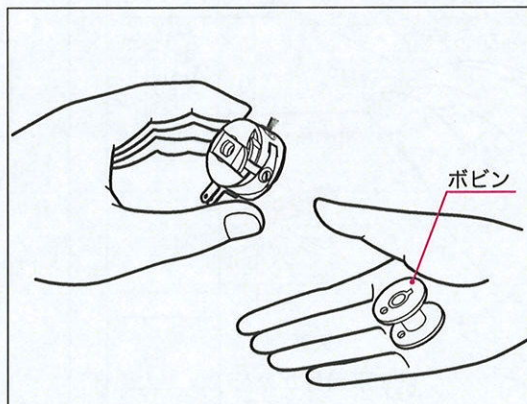
- ② ボビンケースのツメをつまみ、時計(右)回りに少し傾けます。



- ③ ボビンケースのツメを持ったまま、少し傾けながらボビンケースを引き出します。

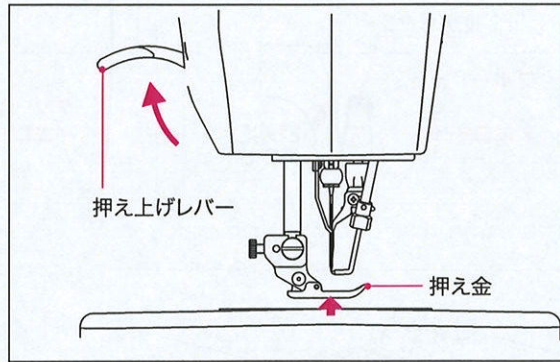


- ④ ボビンケースからボビンを取り出します。

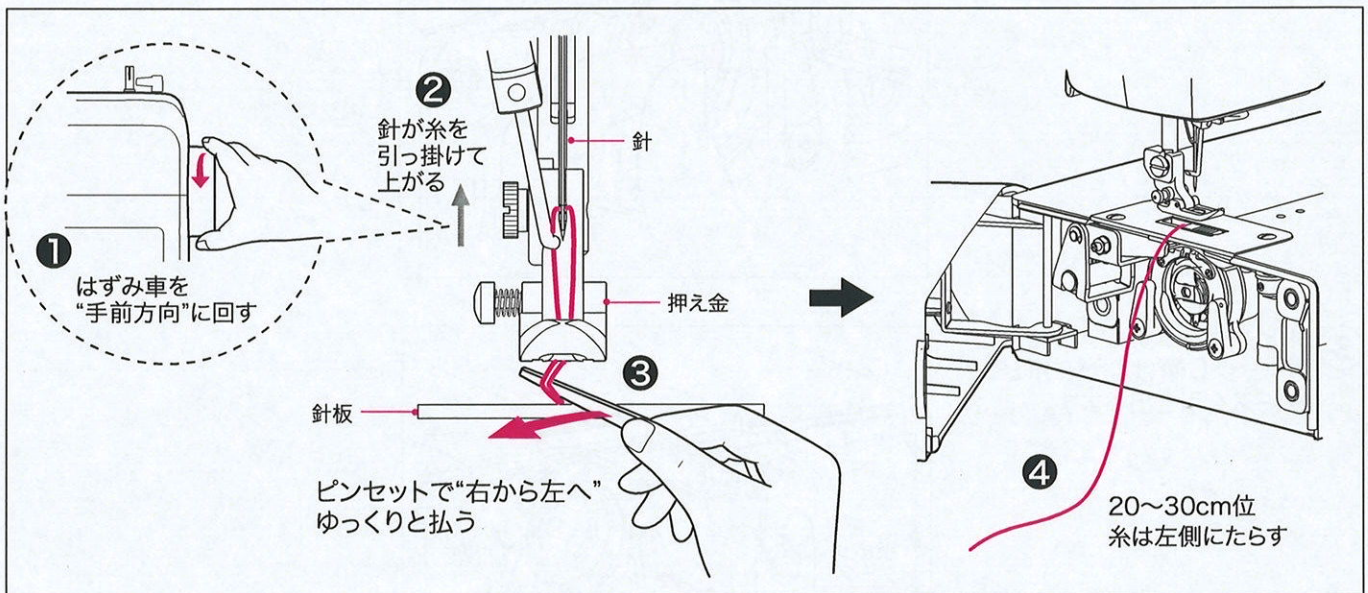


■縫う準備

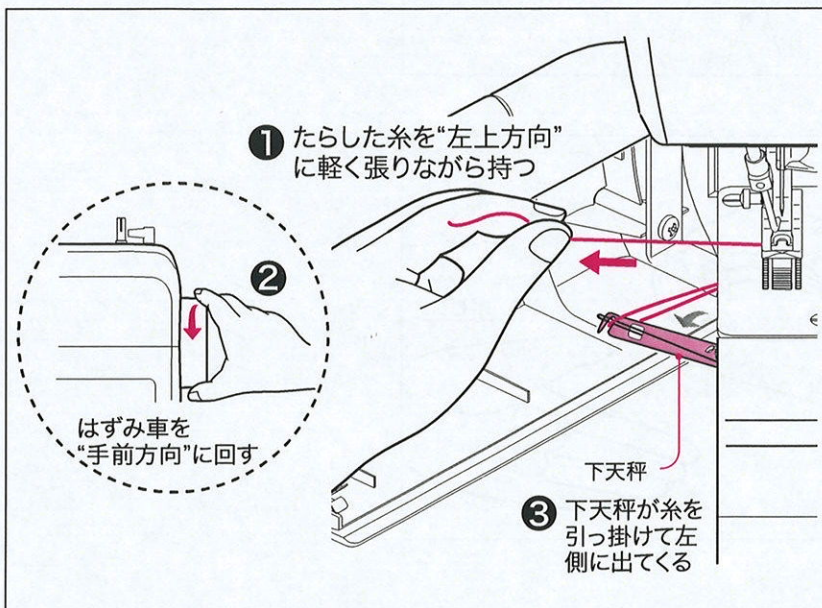
- ① 押え金を上げます。



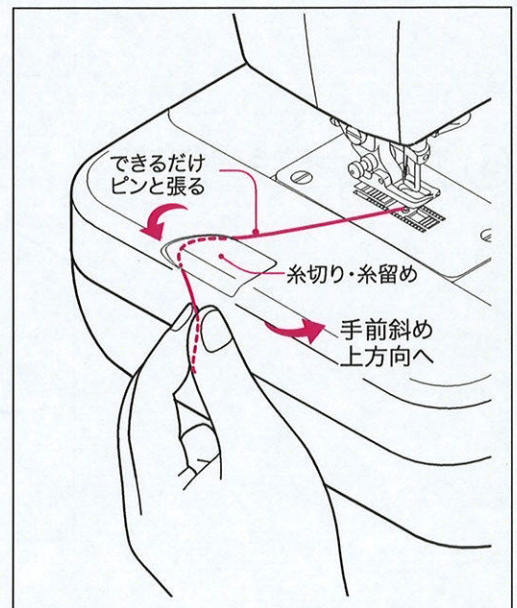
- ② はずみ車を回すと、針が糸を引っ掛けて上がってきます。上がって来た糸を押え金の下で、左側に払います。



- ③ たらした糸を“左上方向”に軽く持ち、はずみ車を回すと下天秤が糸を引っ掛けて出てきます。

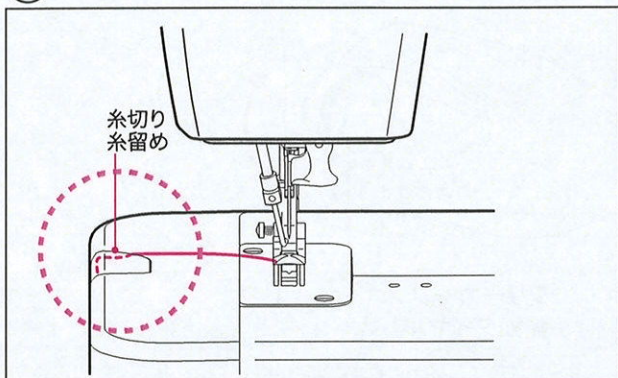


- ④ サイドカバーを閉めてから、「糸切り・糸留め」で糸を切ると、糸端がそこで留ります。

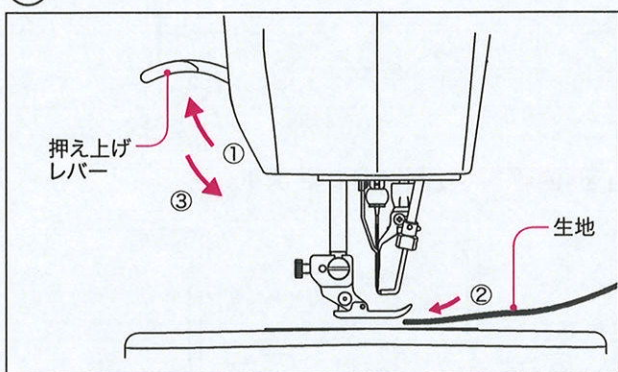


■縫いスタート

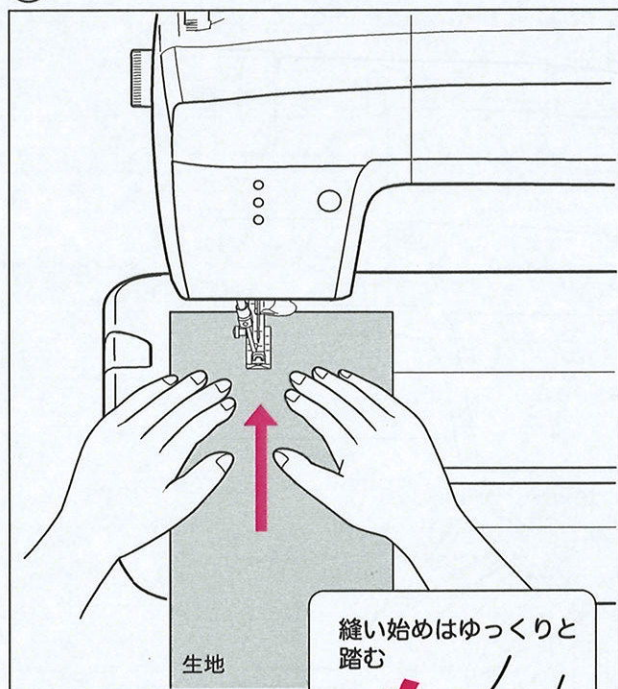
- ① 「糸切り・糸留め」に糸を保持していることを確認します。



- ② 押え金を上げ、生地を入れ、再び押え金を下げます。

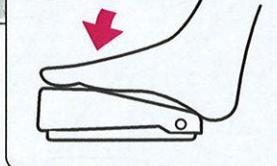


- ③ フットコントローラーを軽く踏んで、縫い始めます。



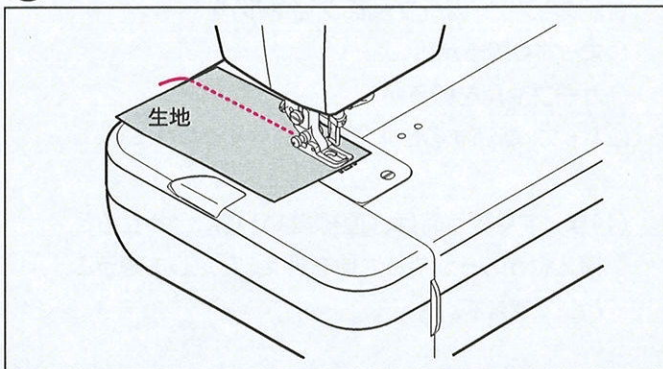
④ 生地を無理に引っ張ったり、押し込んだりしない。針折れ等のトラブルの原因になる。

縫い始めはゆっくりと踏む

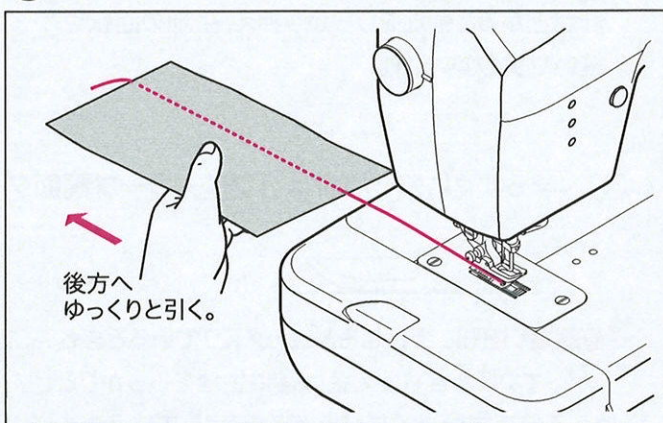


■縫い終わり

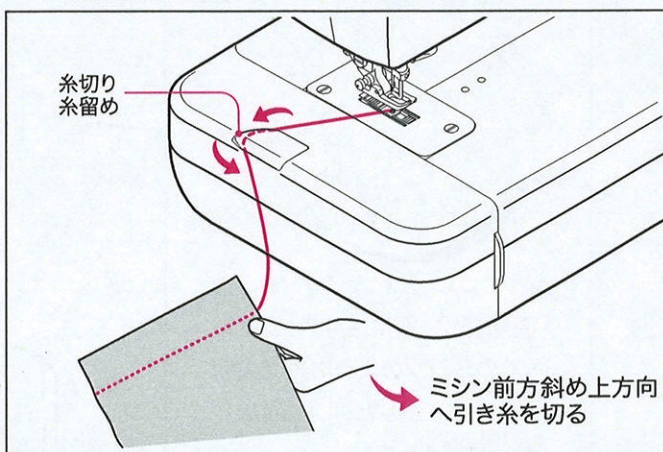
- ① 生地の手元まで来たらミシンを止めます。



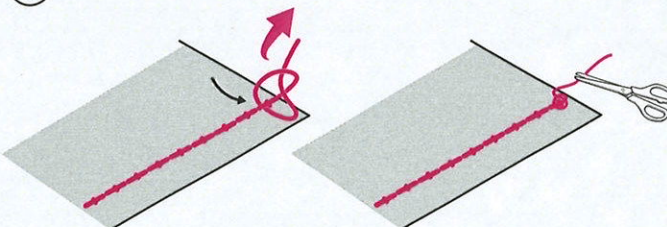
- ② 押え金と針を上げ、生地を後方へゆっくりと引きます。



- ③ 「糸切り・糸留め」に糸を引っ掛けて、ミシン前方斜め上方向へ引いて糸を切ります。切った糸端は「糸切り・糸留め」に留ります。



- ④ 糸端は結んで切ります。



■ 直線縫いとカービングステッチ

右記の「フリーカーブ調節ダイヤル」を、

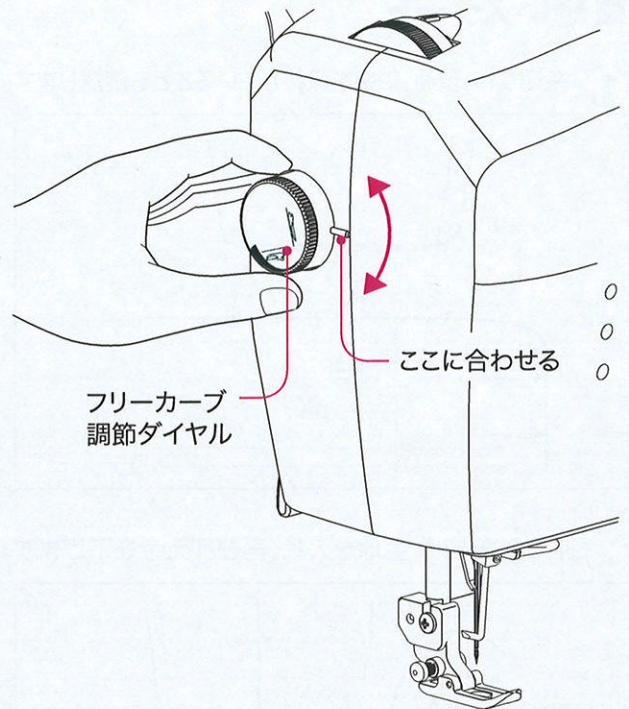
◇まっすぐ縫うか

◇カーブや角を縫うか

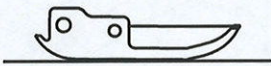
によって、調節すると非常に縫いやすくなります。

(1) まっすぐ縫う時は、『直線縫い』側に合わせると
押え金がしっかりと生地を押え、安定して縫うこ
とができます。

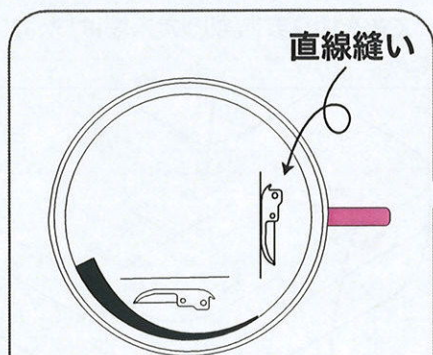
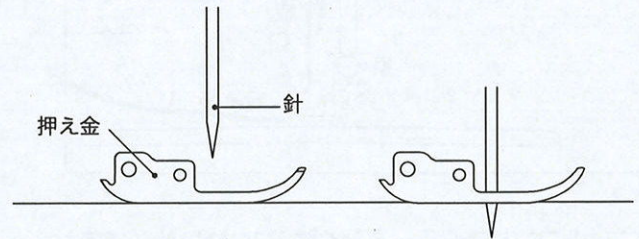
(2) カーブや角を縫う時は『カービングステッチ』側に
合わせると、針が下りているときは押え金がわずかに浮き、
針が上がると生地をしっかりと押え、生地の回転やカーブが
縫いやすくなります。



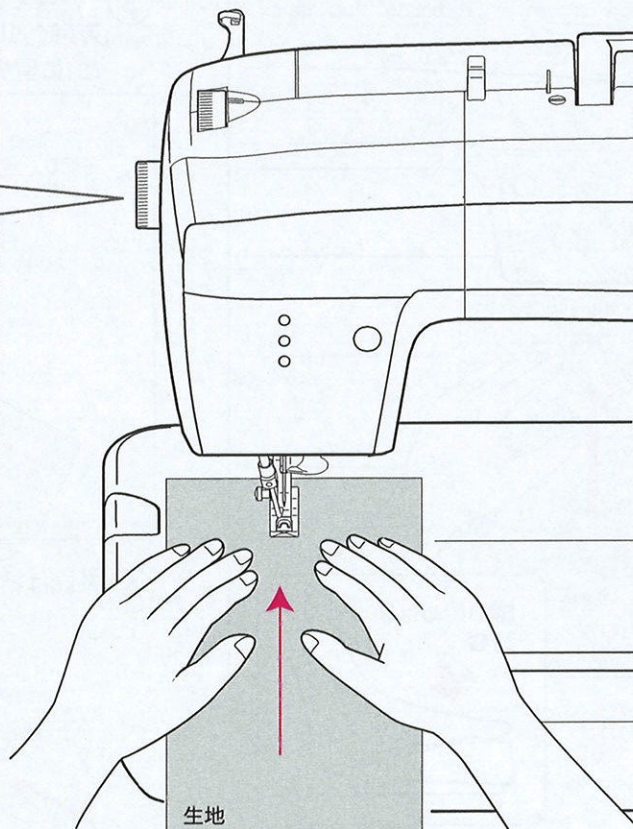
(1) まっすぐに縫う場合は、「フリーカーブ調節ダイヤル」を『直線縫い』側に合わせます。



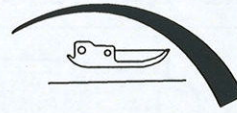
『直線縫い』側に合わせると、針が下りているときも
上がっているときも押え金は常に生地をしっかりと
押えるので、まっすぐに縫うとき、安定して縫えます。



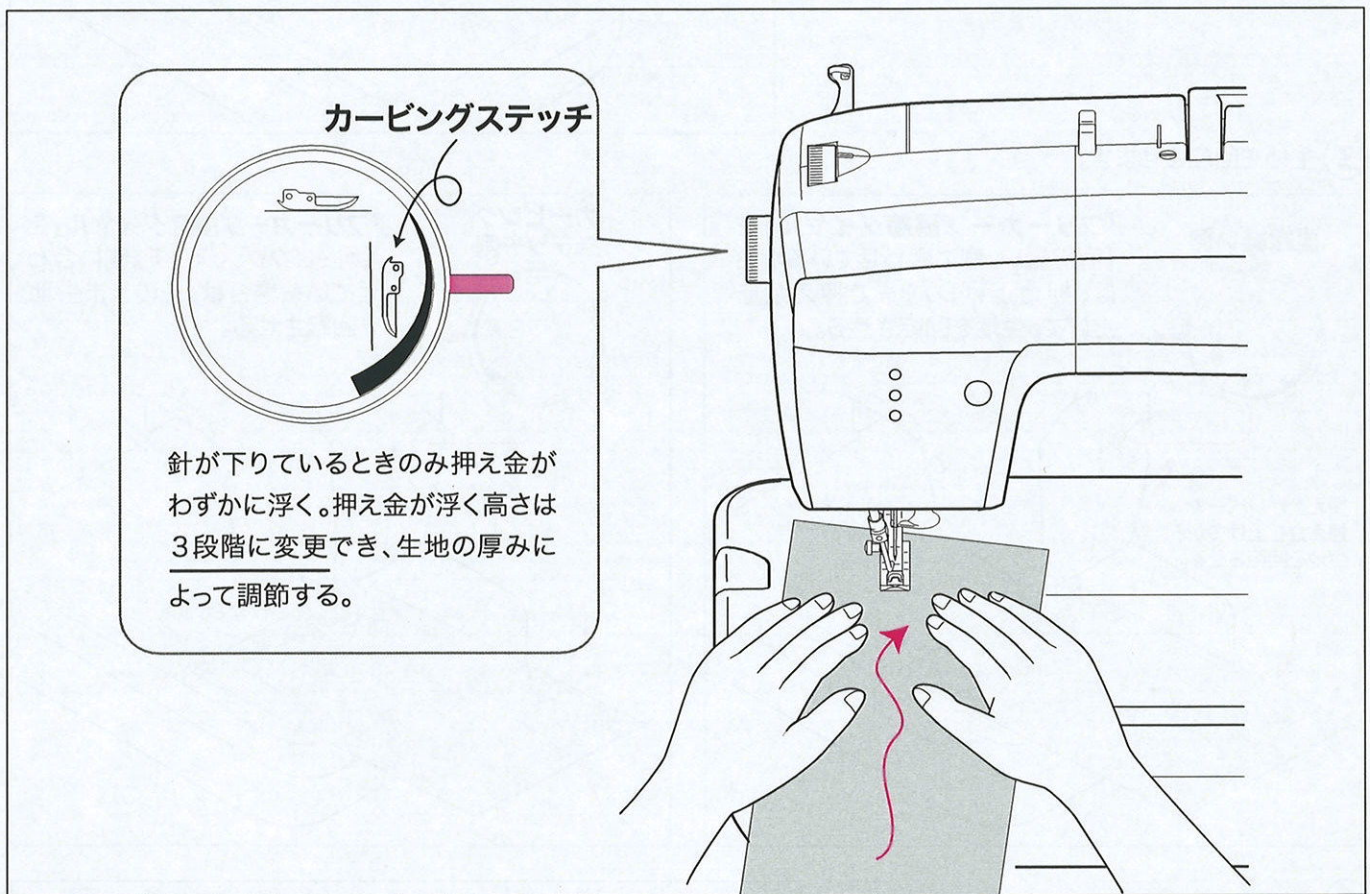
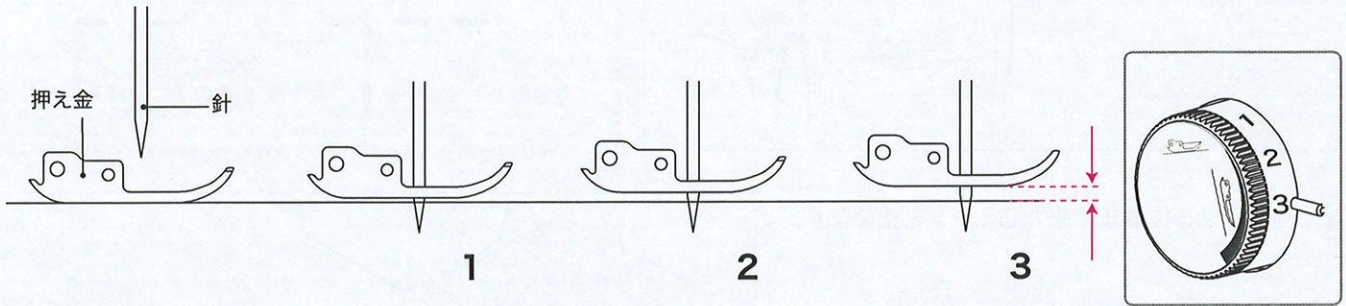
『直線縫い』側に合わせると、
通常のマシンのように押え金は
生地をしっかりと押え、直線が
きれいに縫えます。



(2) カーブ縫いや角縫いなど、さまざまな方向に縫う場合は『カービングステッチ』側に合わせます。



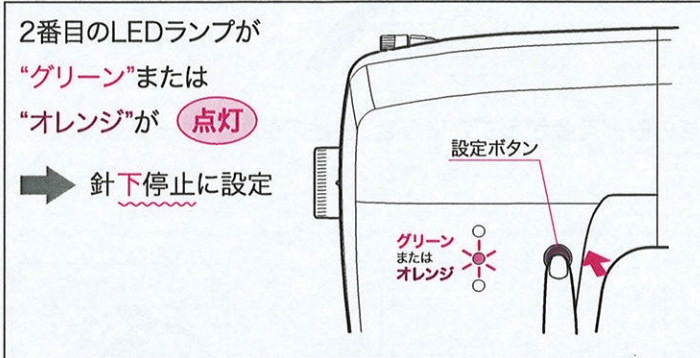
『カービングステッチ』側に合わせると、針が下りているときのみに押え金がわずかに浮き、生地回転やカーブを縫いやすくなります。



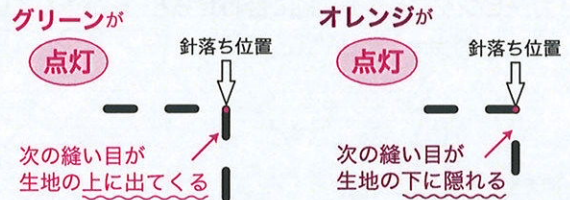
禁止事項 同じ場所 (同じ針穴) に絶対に2回以上針を刺さない。→ 針折れなど、トラブルになる。

■ 生地回転

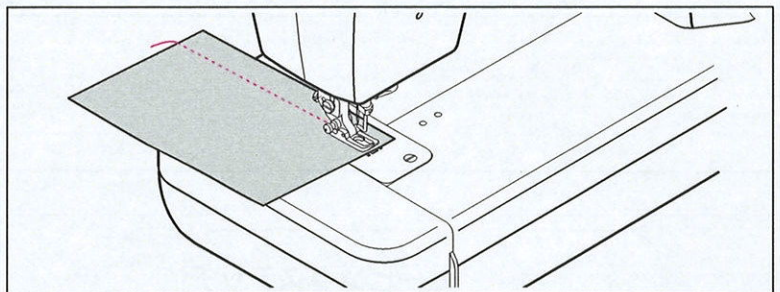
- ① 最初に「設定ボタン」を押して、【針下停止】に設定します。



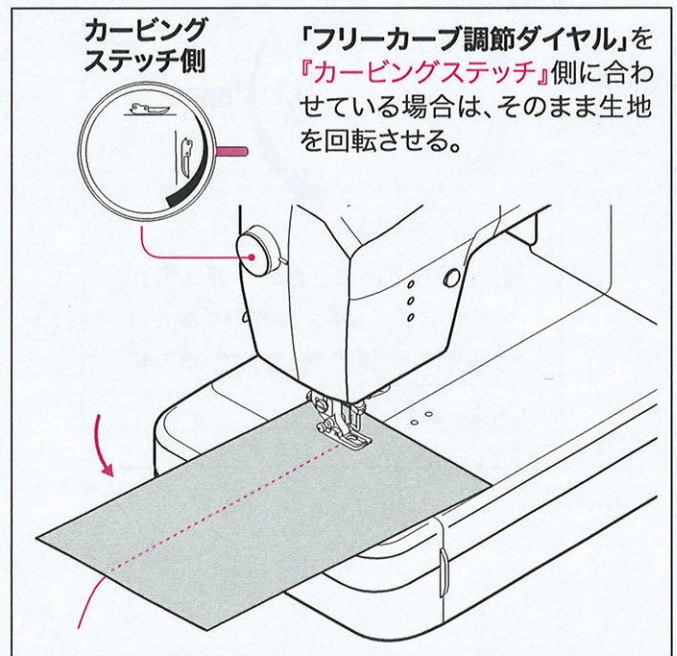
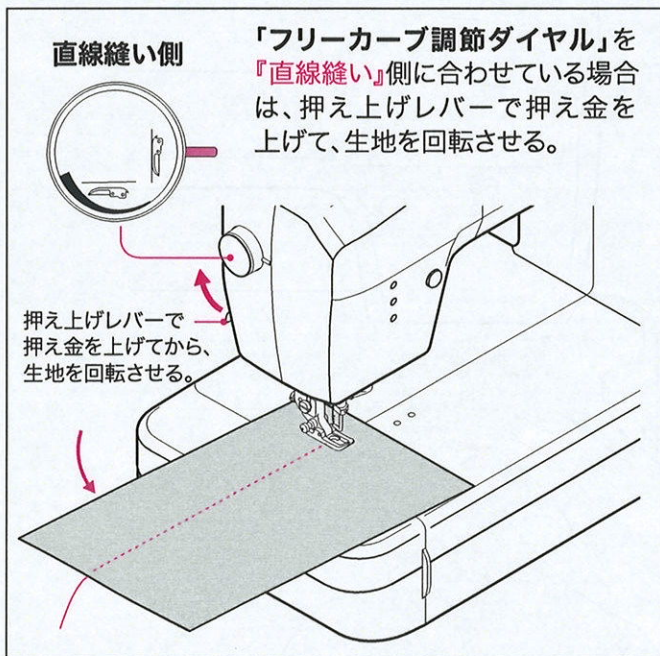
「グリーン」または「オレンジ」に点灯するときは、どちらも針下停止位置に設定されていることを示すが、次の縫い目が「生地の上に出てくる」か「生地の下に隠れる」かの違いがある。角縫いのときは注意が必要である。



- ② 回転させる位置まで来たらミシンを止めます。



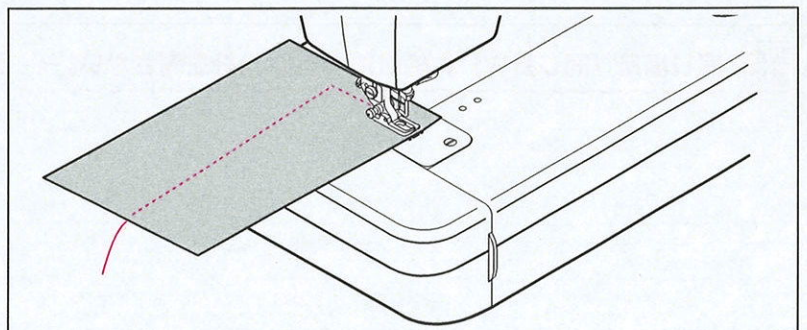
- ③ 生地を回転させます。



- ④ 再び縫い始めます。

『直線縫い』側に合わせている場合は、生地を回転させたら、押え金を下げてから縫い始めます。

『カービングステッチ』側に合わせている場合は、生地を回転させたら、そのまま縫い始めます。



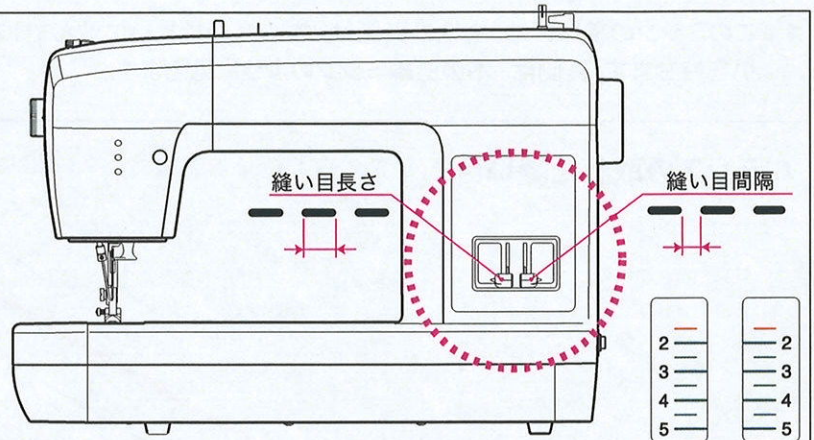
7 縫い目の調節

■縫い目の長さの間隔の調節

このミシンは

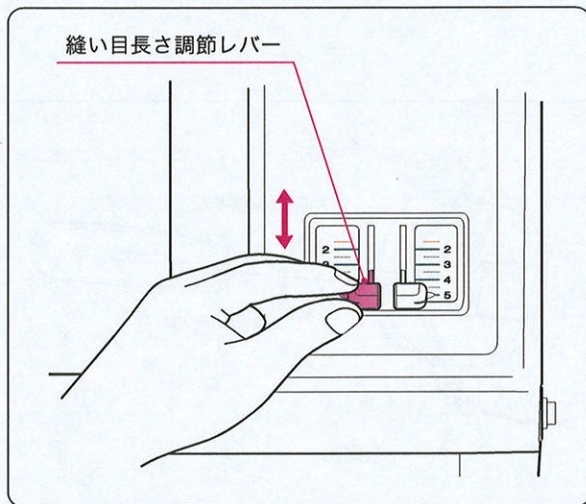
- ①糸が渡る(生地表に出る)「縫い目長さ」
 - ②スペース(生地裏に隠れる)「縫い目間隔」
- を1.5~5mmの範囲で調節できます。
赤の線が1.5mmです。

【註】「縫い目長さ」または「縫い目間隔」を1.5mmで縫うときは、糸の太さを#60より細い糸をお使いください。
それより太い糸で縫うとトラブルの原因になります。

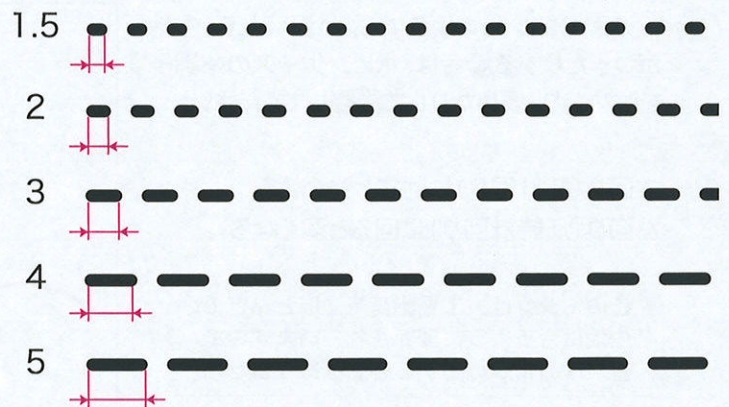


①縫い目の長さ

「縫い目長さ」調節は左のレバーで行います。

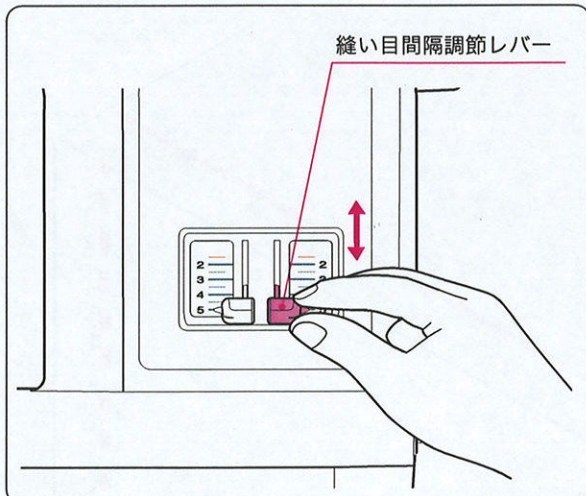


「縫い目長さ」とは、糸が生地の表側に見える部分

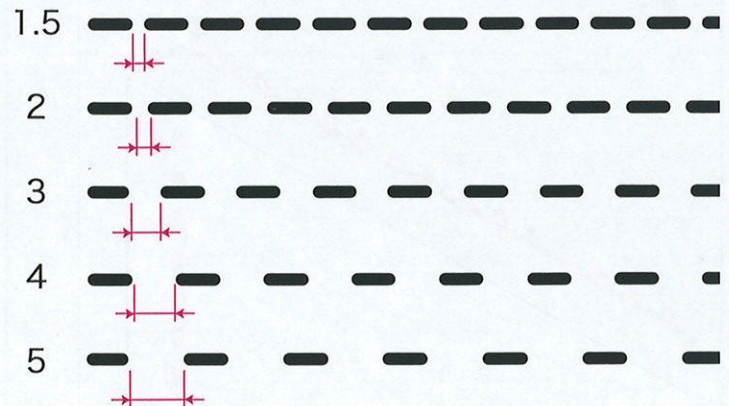


②縫い目の間隔

「縫い目間隔」調節は右のレバーで行います。

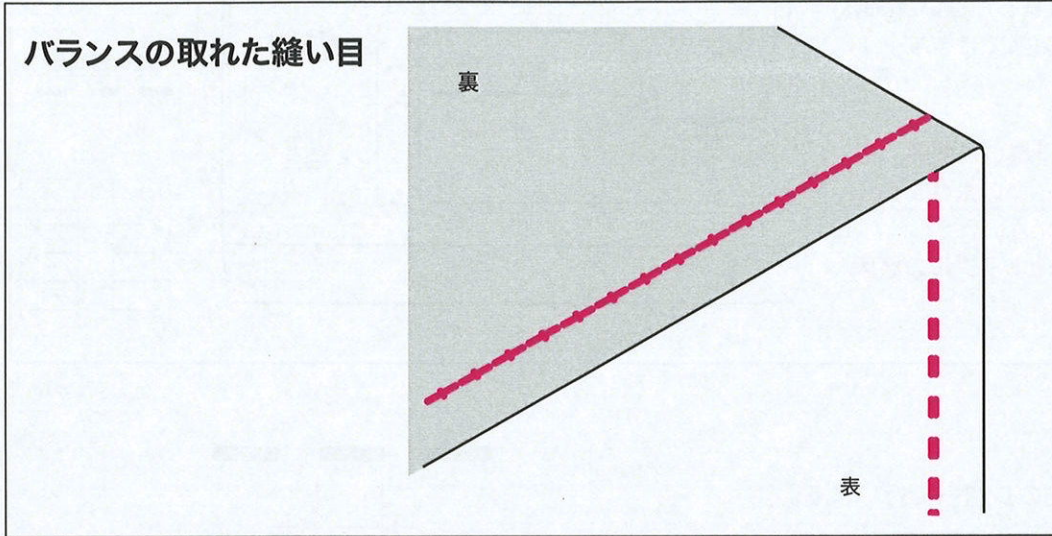


「縫い目間隔」とは、糸が生地の裏側に隠れる部分



■糸調子

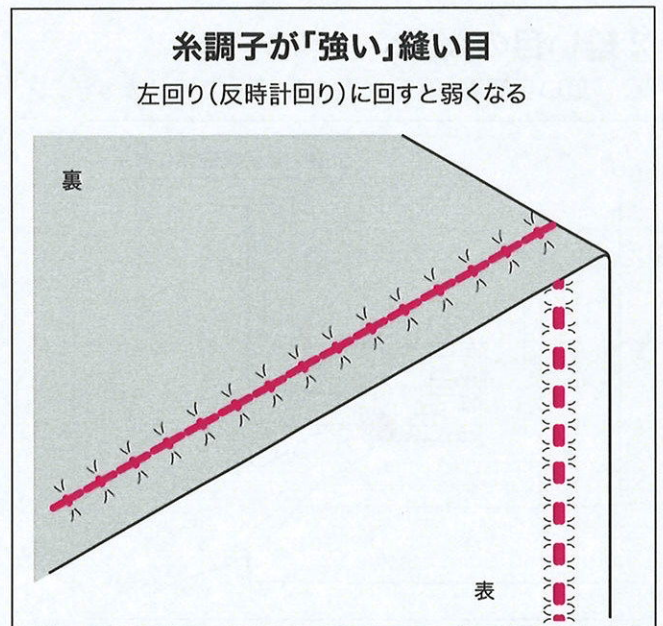
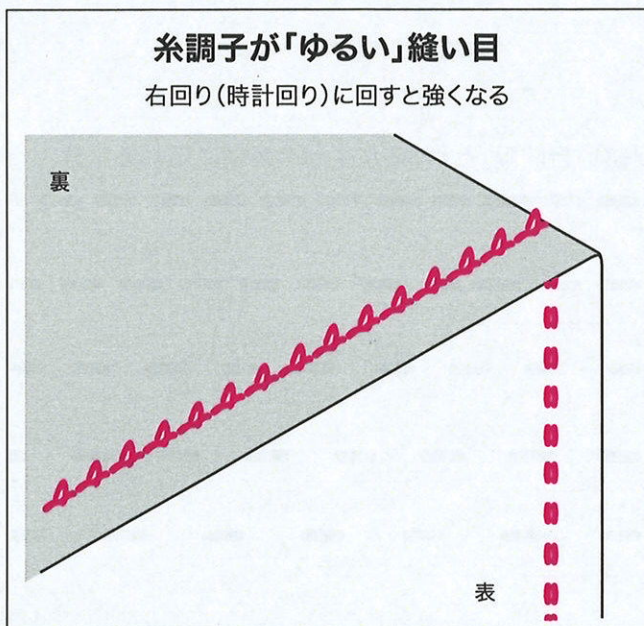
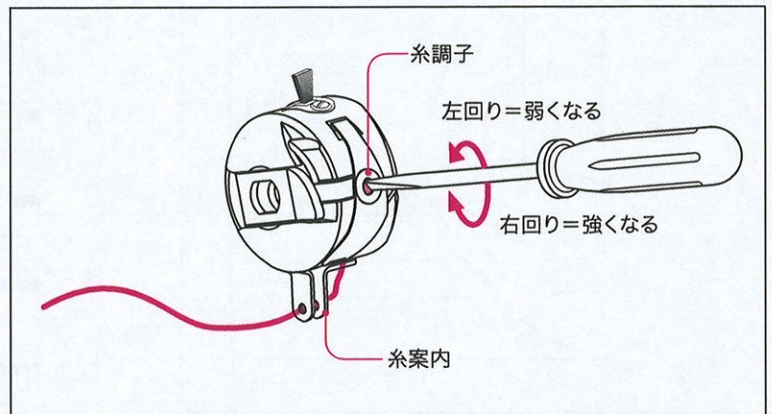
- ① このミシンの縫い目は、生地を表側は2本の糸がきれいに並んで1本のステッチのように見え、さらに手縫いの風合いを持ちます。裏側は1本の直線ミシンのように見えます。



- ② 下の図の縫い目のように、糸が浮いたり、生地がつったりする場合は、ポビンケースの糸調子を強めたり、弱めたりして調整してください。

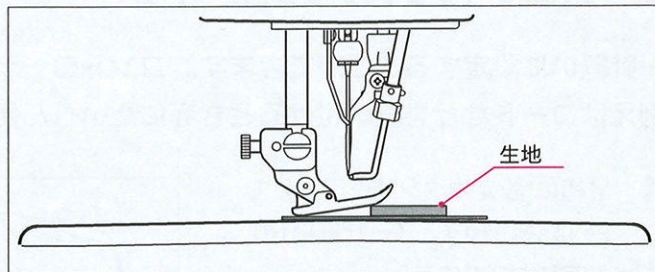
右回り(時計回り)に回すと強くなる
左回り(反時計回り)に回ると弱くなる

このミシンは、工場出荷時にほとんどの生地に合わせて調節されていますので、普段はあまり調節する必要はありません。

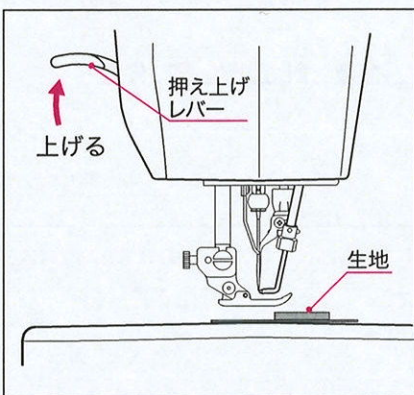


■ 段縫いボタン

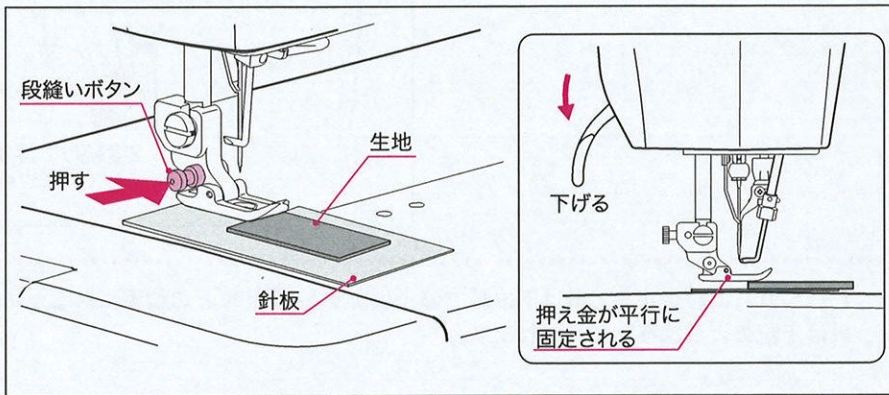
厚い生地 of 縫い始めや段部ある箇所を縫うときは、押え金の先端が浮いて縫い目が乱れがちになります。このミシンにはこうしたときの縫い乱れを防ぐために押え金を平行に保つ機能があります。



① 押えレバーで、押え金を上げます。



② 押え金の左側にある「段縫いボタン」を押しながら、押え金を下げます。すると押え金が平行に固定されます。

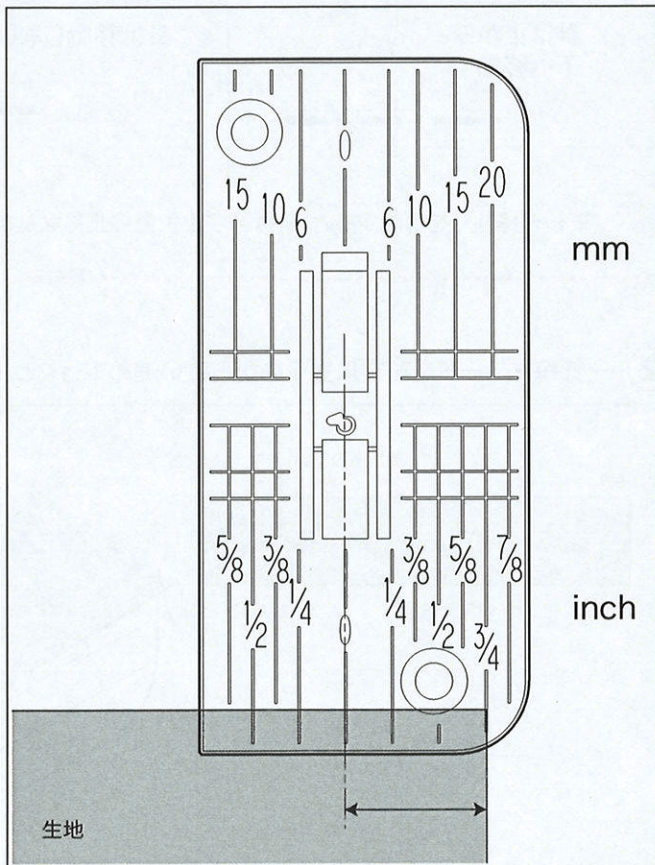


③ 段部を過ぎると自動的に固定が解除されます。

■ ガイドライン付針板

針板には、針落ち位置からの寸法(ガイドライン)を表示があります。

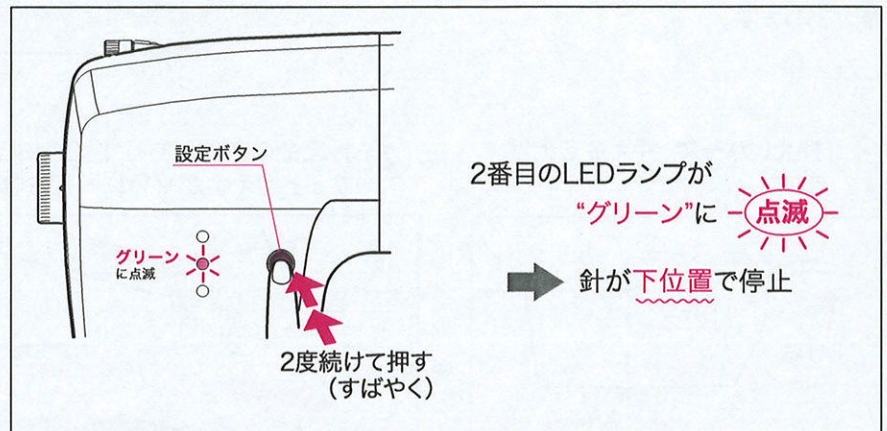
手前側はインチ(inch)表示、後方側はミリ(mm)表示です。



■一針縫い(ワンステップモード)

一針縫いに設定することができます。コントローラーを踏むと一針だけ縫った後、自動的に止まります。例えばコードなどを縫い付けるとき等にたいへん便利な機能です。

- ① 最初に“設定ボタン”を2度続けて(すばやく)押すと【一針縫い】の設定になります。



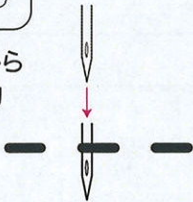
【一針縫い】に設定すると針は下位置で停止しますが、最初にどの位置にあるかによって、針は下記のような移動が行われます。

【針が上停止位置のとき】

1番目のLEDランプ



針は上から下へ移動



【針が下停止位置のとき】

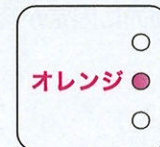
2番目のLEDランプ



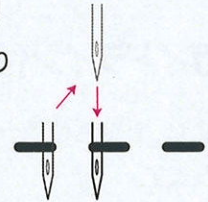
針は移動しない



2番目のLEDランプ

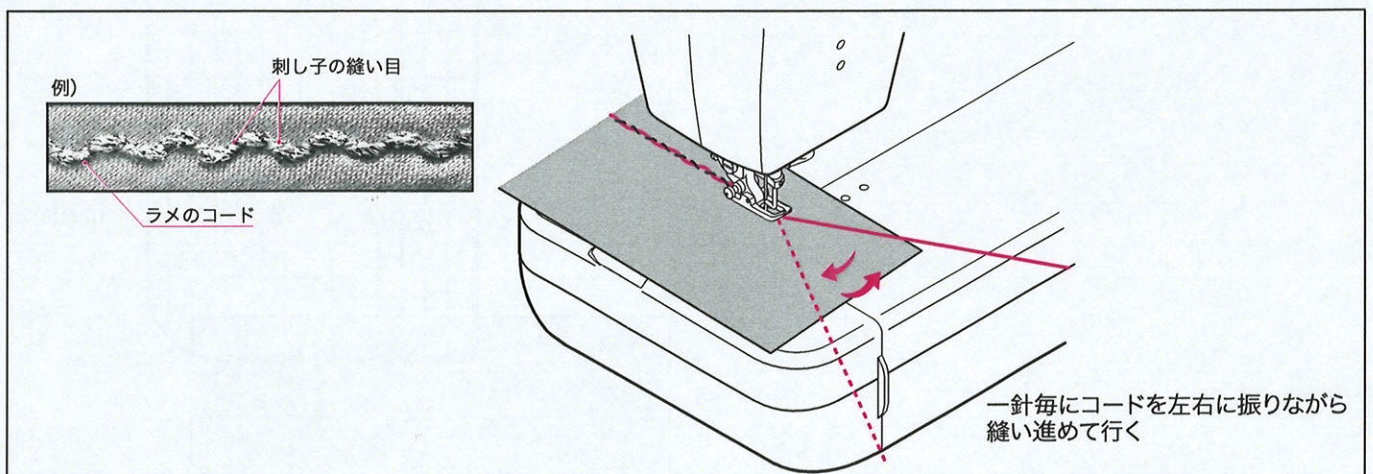


針は一度上がり再び下へ移動



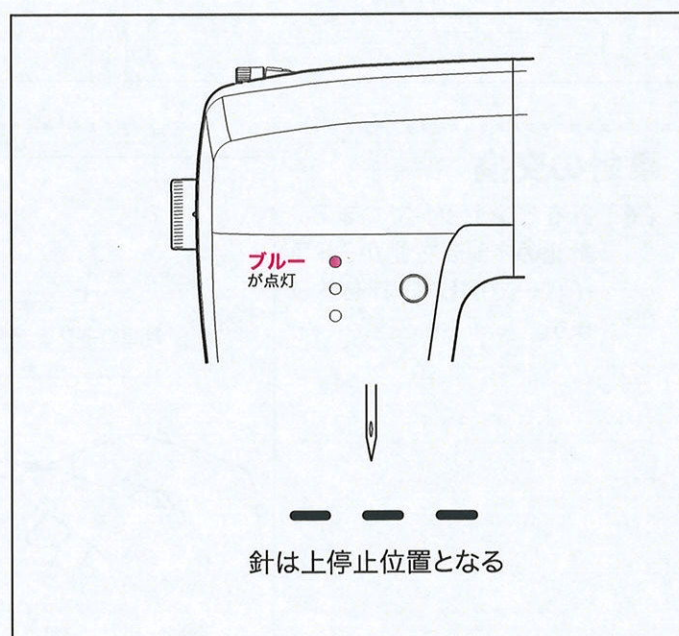
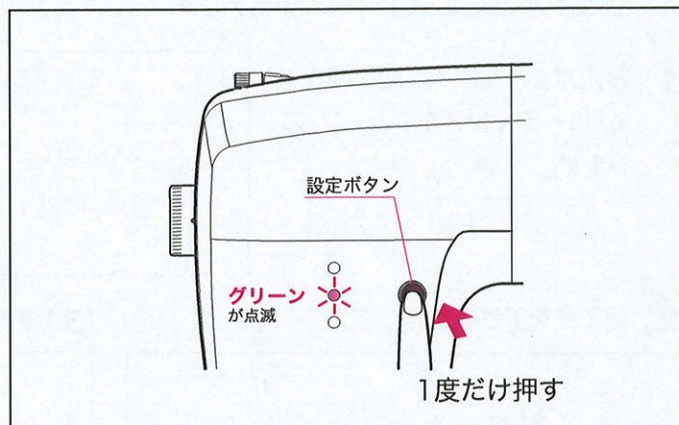
※【一針縫い】を解除すると、針は必ず上位置停止になります。

- ② 一針毎にコードを左右に振りながら縫い進めて行くと、コードを縫い付けるようにして縫うことができます。



一針縫いの解除

一針縫いから普通の縫いに戻すときは、設定ボタンを一度だけ押すと点滅していた2番目のグリーンのランプが消え、1番上のランプがブルーに点灯して上停止位置になります。

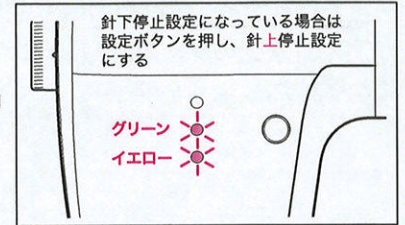
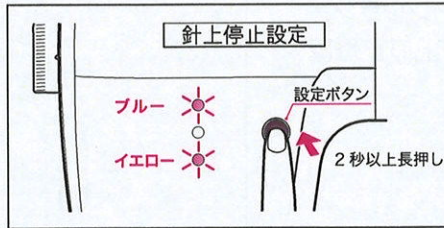


9 メンテナンス

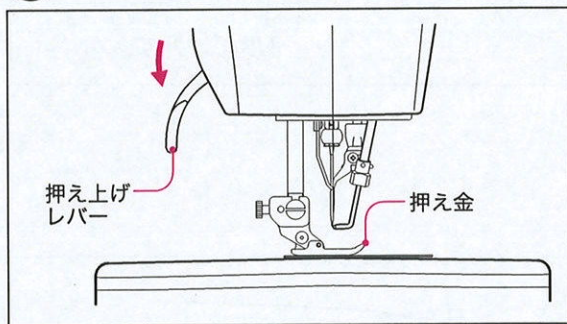
針は消耗品ですので、定期的に交換してください。特に針先が曲がったり折れている針は絶対に使用しないでください。故障の原因になります。また針も蓋針もこのミシン専用の特殊なものですので、ミシンをご購入いただいたミシン店にてお買い求めください。

針や蓋針の交換は以下のように行います。①～③・⑥は針も蓋針も同じです。

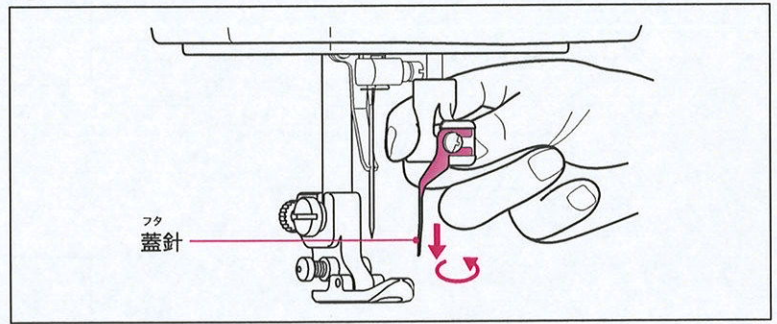
- ① 設定ボタンを2秒以上長押しして『ローディングポジション』にします。



- ② 押え金を下げます。

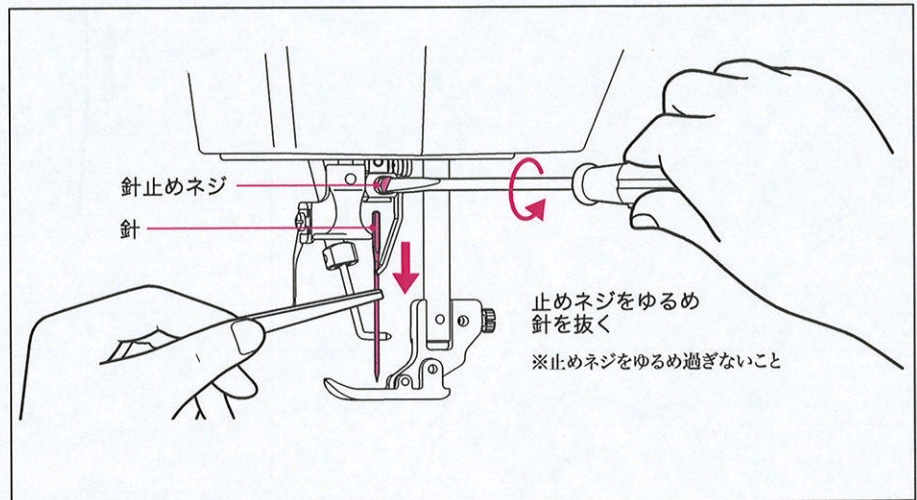


- ③ 蓋針をいっぱい下ろしてから、左(反時計回り)に回転させます。

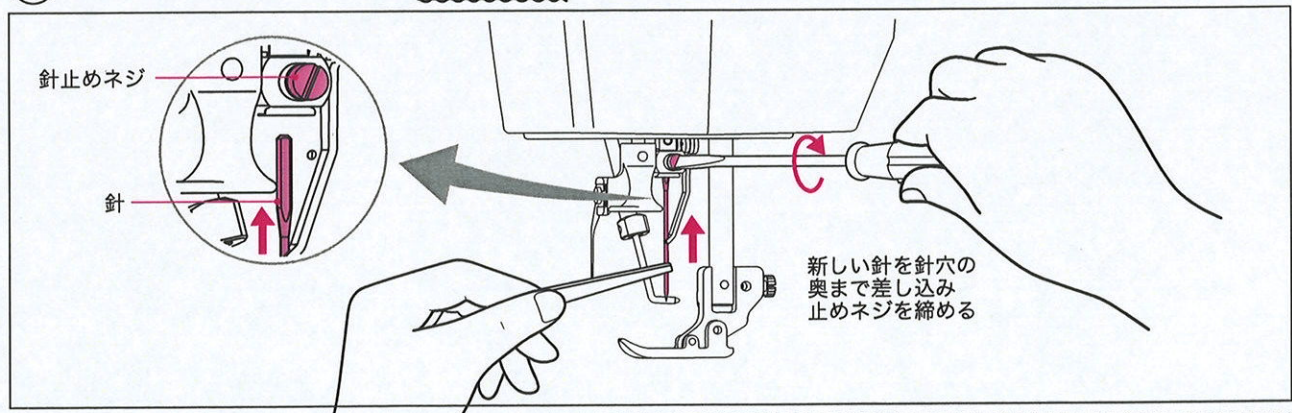


■ 針の交換

- ④ 針をピンセットでつまみ、針止めネジを右側からドライバーで回して、針を外します。



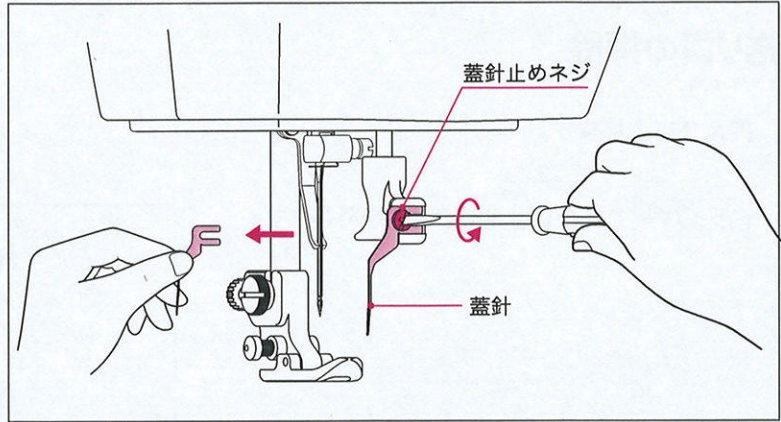
- ⑤ 新しい針をピンセットでつまみ、針留に奥まで差し込んで、止めネジを回して、針を固定します。



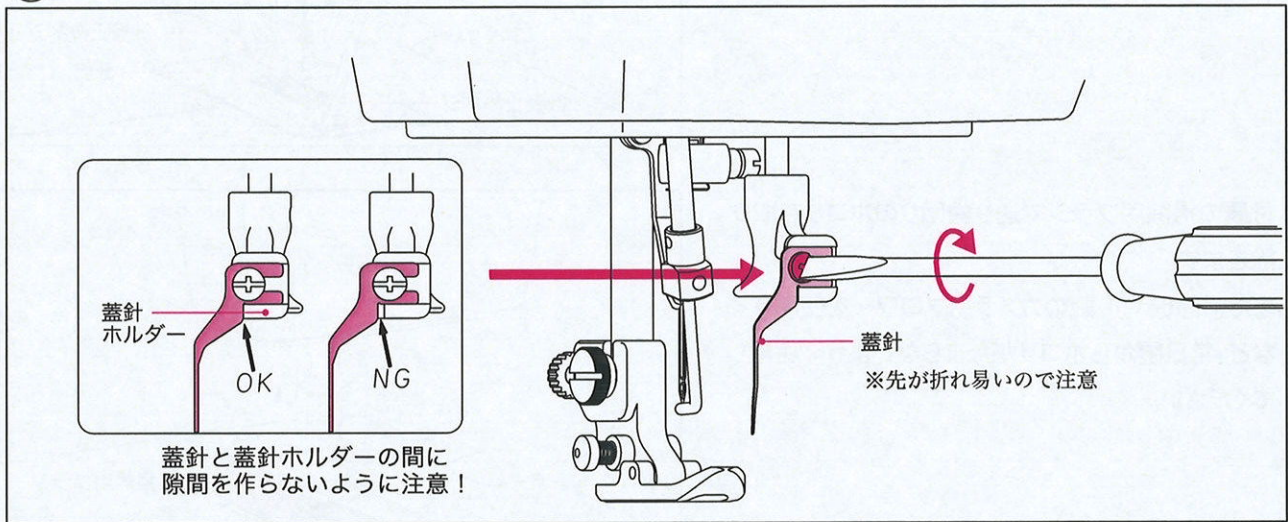
フタ

■ 蓋針(ラッチワイヤー)の交換

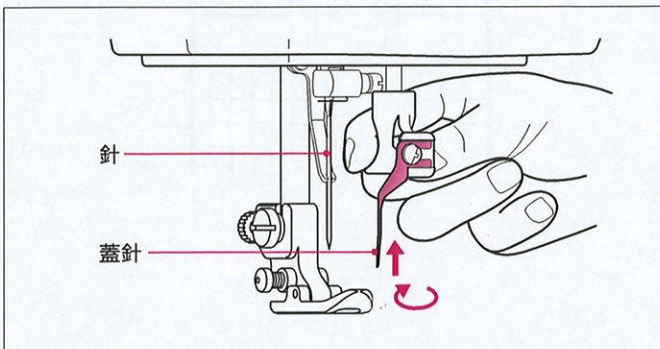
- ④ 蓋針のと止めネジを回して、左方向に抜きます。
※止めネジはゆるめるだけで、取りはずす必要はありません。



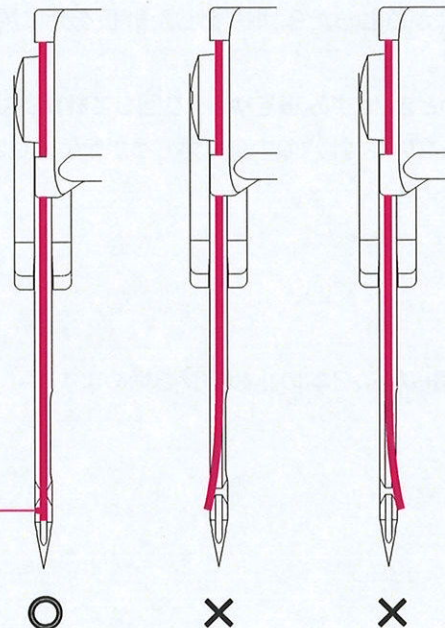
- ⑤ 新しい蓋針を左から奥まで差し込んで、止めネジを回して、固定します。



- ⑥ 蓋針を右方向(時計回り)に回し、元に戻します。
その際に右図のように蓋針が針にきちんとセットされたかを確認します。



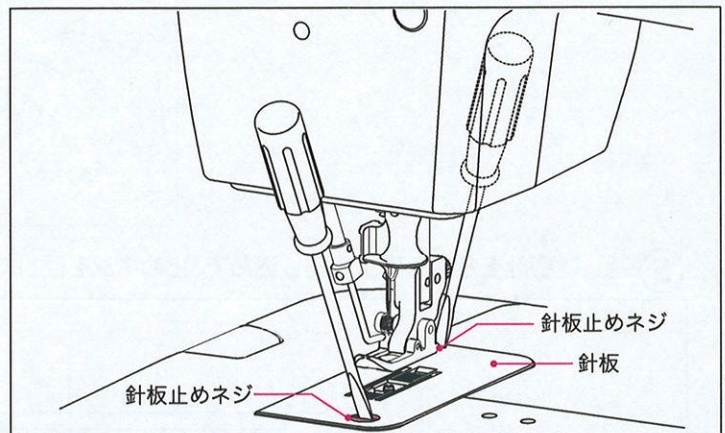
蓋針が針にきちんと
セットされたか確認!
※針の溝に入っていること



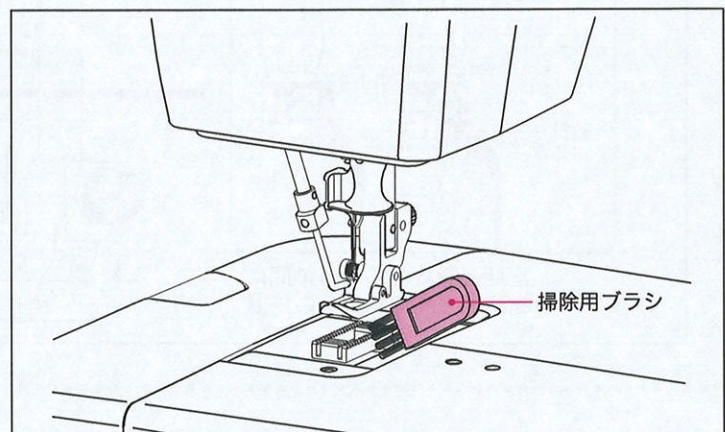
⑧ 安全のために掃除をするときは、必ず電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

■ 送り歯の掃除

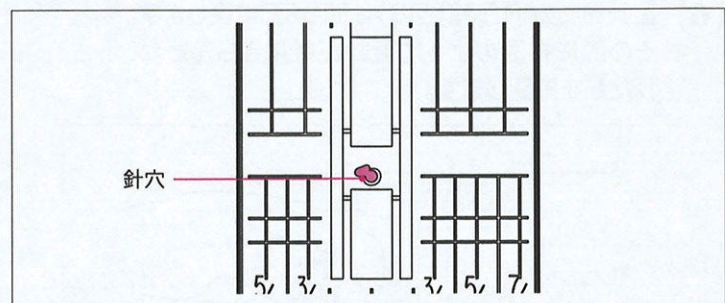
- ① 押え金を上げます。
- ② ドライバーで針板の止めネジ2本を外します。



- ③ 付属の掃除用ブラシで送り歯回りのホコリを取り除きます。
また掃除機や市販のカメラ用ブロワーを使用するなど、常日頃からホコリがたまらないように注意してください。



- ④ 掃除が終わったら、取り外した針板を元に戻します。
このとき、はずみ車をゆっくり回して針が針板に当たらないか、針穴の中央に落ちるかを確認します。

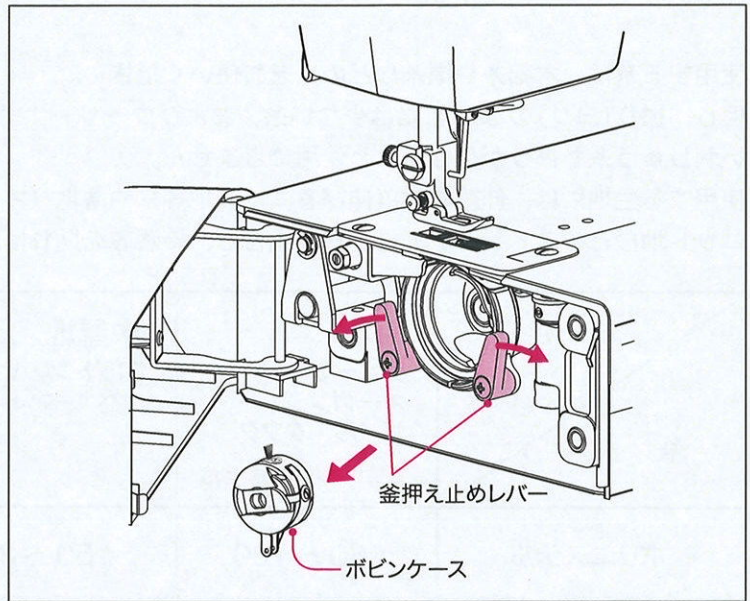


- ⑤ 確認したら、2本の止めネジを締めます。

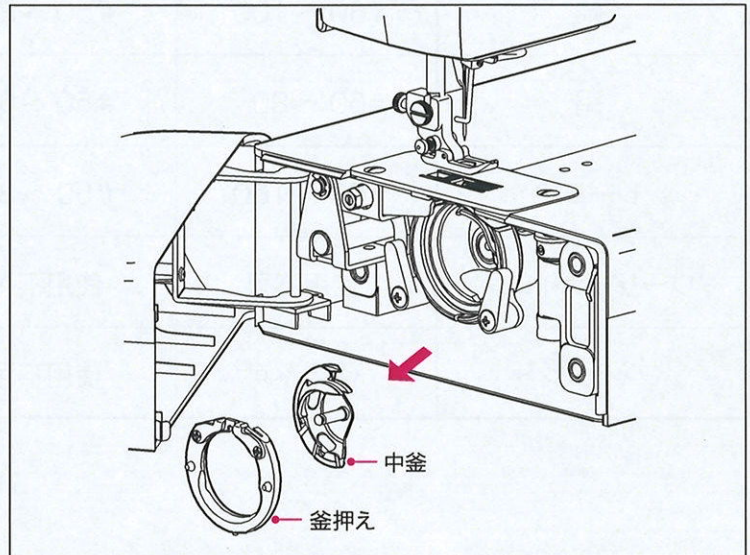
重要

■ ボビンケースの掃除

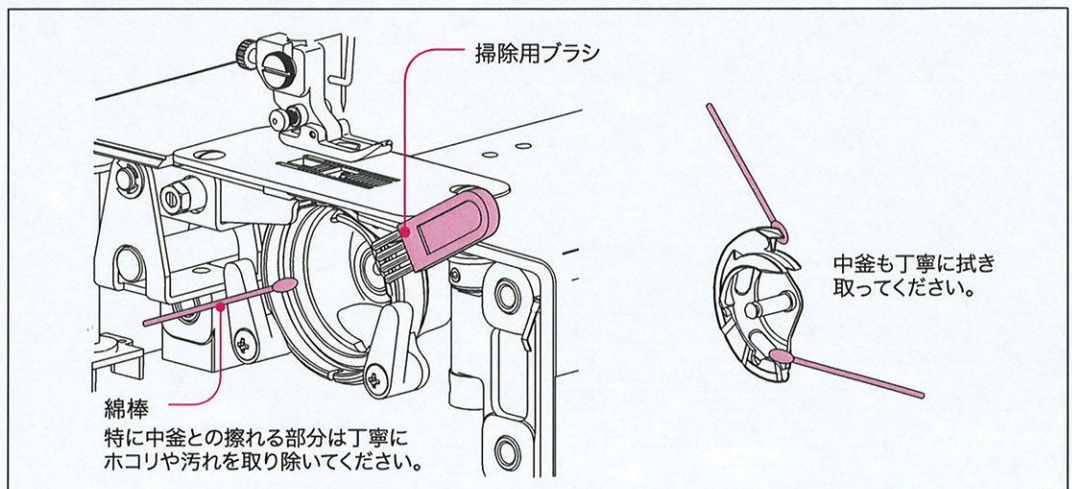
- ① 釜からボビンケースを抜きます。
- ② 左右の釜押え止めレバーをそれぞれ倒します。



- ③ 釜押え、中金の順に取り出します。



- ④ 付属の掃除用ブラシや綿棒で、ホコリや汚れを取り除きます。また掃除機や市販のカメラ用ブローワーを使用するのも良いでしょう。



- ⑤ 掃除が終わったら、取り外した逆の順にセットする。

10 生地と糸について

使用する糸は、木綿糸や絹糸などの糸をお使いください。

但し、撚り(ヨリ)のないまたは少ない糸、およびウーリーナイロン糸は使用できません。また刺し子用の糸や手縫い刺しゅう糸も撚りが少ないため使用できません。

使用する生地には、伸縮素材(伸びるニット地等)や薄地(オーガンジー等)は適しません。

ニット地などのストレッチ素材を縫う場合は、接着芯を貼れば縫うことができます。

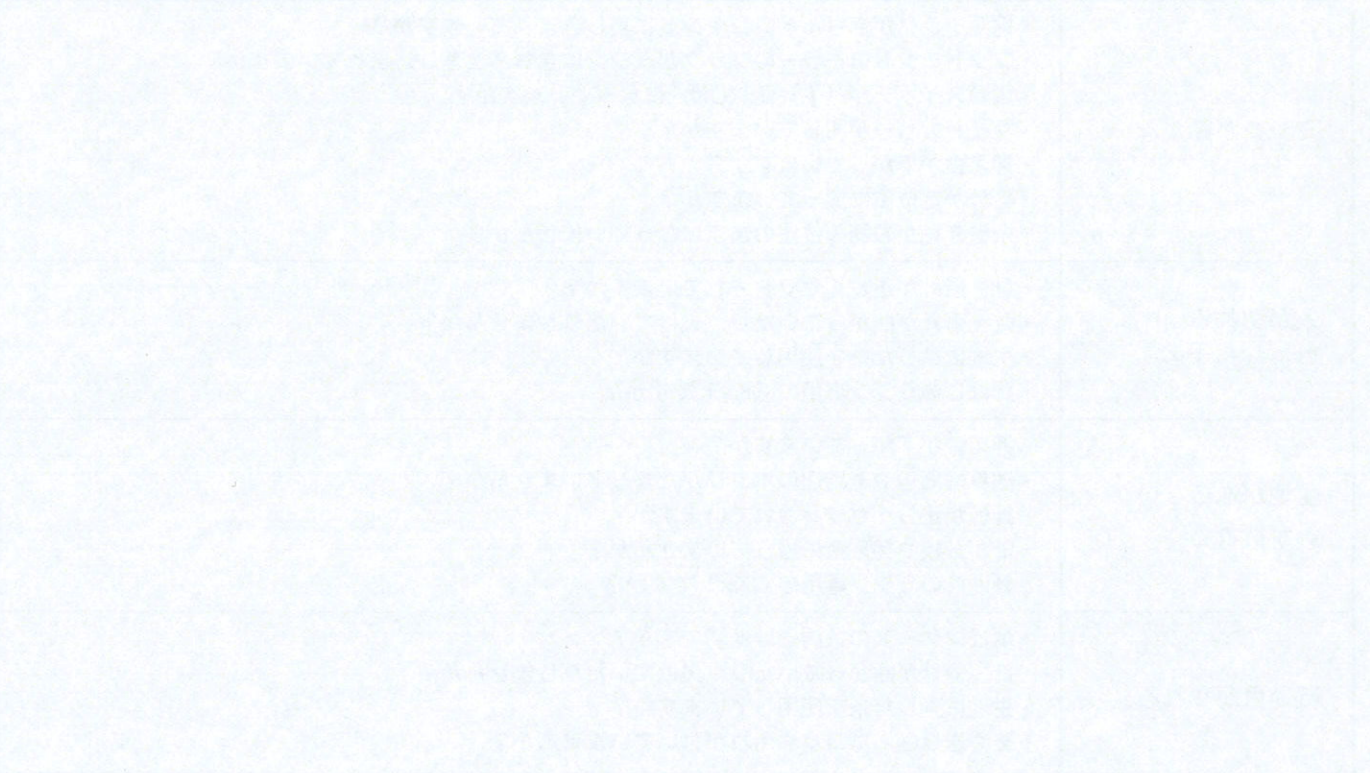
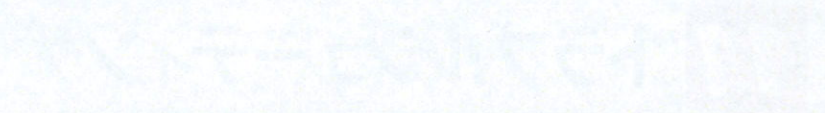
糸 \ 生地	薄地 ジョーゼット・ オーガンジー・ ポイル・タフタ ※薄地は推薦しません	中厚地 コットン・サテン ・ベルベット	厚地 デニム・ツイード ・フリース	キルティング
ポリエステル	#60 ~100	#50 ~80	#50 ~80	#50 ~60
綿	#60 ~100	#50 ~80	#50 ~80	#50 ~60
絹	#60 ~80	#50 ~60	#40 ~60	#50 ~60
レーヨン	#60 ~100	#50 ~80	#50 ~80	#50 ~60
ウーリーナイロン	使用不可	使用不可	使用不可	使用不可
フィラメント	使用不可	使用不可	使用不可	使用不可

11 | トラブルシューティング

<p>ミシンが動かない</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・電源プラグがきちんとコンセントに差し込まれていますか？ ・フットコントローラーのプラグがミシンにきちんと差し込まれていますか？ ・電源スイッチが〔I〕側（ON）になっていますか？ ・サイドカバーが閉じていますか？ ・押え金下がっていますか？ ・蓋針が定位置に戻っていますか？ ・糸巻き軸が右側の位置のままになっていませんか？
<p>糸が切れる 目飛びがする</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・針・蓋針が正しくセットされていますか？ ・針・蓋針が曲がっていたり、欠けていたりしませんか？ ・生地に適した糸を使用していますか？ ・針はこのミシン専用の QK×1 ですか？
<p>生地が送らない 針が折れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・押え金下がっていますか？ ・送り歯周辺や釜周辺にホコリがたまっていますか？ ・針板が正しくセットされていますか？ ・針が針板や押え金に当たっていませんか？ ・針はこのミシン専用の QK×1 ですか？
<p>縫い目が乱れる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ボビンケースの糸調子は適切ですか？ ・針・蓋針が曲がっていたり、欠けていたりしませんか？ ・生地に適した糸を使用していますか？ ・釜や送り歯にホコリや汚れが付いていませんか？



MEMO



Technical Data

■仕様

- 縫い形式：刺し子縫い・ハンドステッチ
- 縫い目長さ：1.5 mm ~ 5 mm
- 縫い目間隔：1.5 mm ~ 5 mm
- 縫い速度：毎分400針(常用)
- 使用針：刺し子ミシン専用かぎ針QK×1 #110/#18
刺し子ミシン専用蓋針(ラッチワイヤー)
- 使用糸本数：1本
- ミシンの大きさ：奥行215mm×幅490mm×高さ345mm
- ミシンの重さ：12.7kg

Sashiko

baby lock

株式会社 **ジューキ** <http://www.babylock.co.jp>

本社 / 〒102-0073 東京都千代田区九段北1-11-11 TEL03(3265)2851(代表)

札幌 011(737)6821 新潟 0250(43)4451 東京 03(3265)8741

名古屋 052(917)3671 大阪 06(6768)3651 広島 082(227)5781

福岡 0942(44)7921 修理等のご依頼はお買い上げの販売店を通じてご連絡ください。

お客様へ

お買い上げ日、販売店名を記入されておきますと、修理などのときに便利です。

お買い上げ日	年	月	日
販売店名			

修理やアフターサービス等でミシンを送付する必要がある場合があります。そのため、梱装箱は捨てないで保管されることをお勧めします。